WASON
HQ
1764
J29+

Sept. 1897
no. 450

明治三十年九月廿五日

女學雜誌

第四百五十號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第四百五十號目次

◎社説
拓殖に於ける婦人

◎評論
基督教界の時論

◎女學
各地女風俗の報告を求む
一各婦人社會の研究に就て
穆山大禪師の母堂鬼婆
比丘尼に就て
クロンダイク金坑の發見と米國婦人◎西京女の勞働◎夫婦の下宿住居　ちやうてい

◎教育
天才とカリオ
天才に就て◎教育家の獨立◎胸調子◎外國語の流行◎沖繩島の教育　青柳有美

◎隨感
親としての美◎聖賢の教何處にある◎宗教的同情なきの寂寥◎赤兒の履歴

◎雜録
海舟翁茶話
僞善者(上)
レナルド、エンド、ゲルツルードの一節
粟津の原◎我やすみ　花影子
案山子廼舎社點取合詠　池袋清風大人評點
小兒の歌謠

◎時文
支那文學大綱◎三國探撿實記◎卯花月夜◎九郎判官◎姨捨山◎芭蕉全集◎新著月刊◎新小說◎若菜集

◎片々◎時報

社告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や簡易實際を專らにし、第一、家庭の整理改善に益ある事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學教界に對する吾黨多年の主義を發表するもの。

◎單に十日發行の分のみを購求せんと所望せらるゝものあらは其望に應ずべし

女學雜誌定價表

前金	廣告料	送金	注文
壹冊價金拾錢 半年前金金一圓拾錢 一年前金金貳圓 (無郵稅)	一行一回(廿七字詰)前金十錢 同三回以上一割引 同六回以上二割引 但し不道德なる廣告は謝絕す。慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く	爲替は東京四谷區麴町十一丁目郵便受取所に宛て小爲替にすべし○郵便切手にて送る人は五厘切手にて且つ一割增を添ふべし	注文は東京麴町區下六番町六番地女學雜誌社あてに申越さるべし

●注意●

代金は凡て前金の事◎前金切れの節は封皮の捺印に御注意の上早速御送金有之度候

第四百四十九號目次

◎口繪
白知教育の開祖エドワード、セグインの肖像

◎社説
二種の世界合同運動

◎家庭
某學校女生徒の家庭日記　H・S・生
家の厄介
心づきたるまゝ(おむら)◎武士の家庭◎各地方の子守歌(二)　かも子

◎講義
夫婦アルカリの營養作用(中)　石塚左玄氏說
附變鹽食養の道歌

◎史傳
白知教育の開祖エドワード、セグイン　鷗村

◎文藝
文雅のたしなみ
評釋砧の聲　長汀曲浦

◎雜錄
撰集抄を讀む
撰集抄ぬきほ◎古寺◎白菊◎友を懷ふ◎須磨の浦　蕉雨生

◎時文
女子作文のはやし◎枯野の眞葛◎水上遊戯全書◎島左近◎芙蓉峯◎日の出島◎女子教育演說

◎片々◎時報

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第四百五拾號

明治三十年九月二十五日發兌

社說

拓殖事業に於る婦人

凡そ殖植に趨くものは、失望に追れて有望に招かるゝの故に能く難を侵す。苟も太平無事の安眠に夢みん間は、何人も強ひて故郷舊慣より離れんとすることなし。夫れ在來の地位に何等かの不滿足ありて其の望を失へるの故にこそ、力めて住慣れたる舊跡を見棄つるなれ。左れど若し新に有望を供へて其氣を引くものなかつせば、又何をもてか能く歡樂なき荒原に分け入らんとはせん。先づ拓殖の人に入用なるは、將來に於ける其の多望にあり。

然りと雖も、遠大の望は着手の初に於て、只だ刺激奬勵の効あるのみ。既に實地に臨みて日々の細事にあたり、一年三百六十餘日、變化なく色彩なき同樣の俗務に服するに際しては、人は遠大の希望よりも先づ手近の樂しみを必要す。たとひ身後に万代の名あらんとも、生前に一杯の酒あるに如かずと嘲ち、人生の事もと些細より成ると觀ぜしなど、皆な實際の經驗なり。此をもて、たゞ一時の感慨に激して理想の建築にのみ忙しきものは、多くは拓殖の功を誤る。たとひ誤らずと云ふと雖ども、其の成効や存外に晩し。たゞ僅かの意氣地によりて初念を支ふるのみ、是れ豈に眞の事業ならんや。かるが故に、平凡の精神をもて發企し、平凡の和樂によりて滿足し、日常世態に何等の懸隔なき趣構によりて拓殖に趨くもの、反つて多く成効し、かの愛國心など唱ふる嚴めしき人士の設計の寧ろ失敗に歸する多き所以のもの、豈に夫れ人生些細の快樂に着目することの足らざるの故に非ずや。天下、拓殖に趨くことの最も急なるものは佛蘭西人に若かず。一旦軒昂として意氣激するとき、何ぞ其の壯んなるや。試みに、之をもて彼の英人の遲々たるに比較せよ。誰か其の壯快なることを悅ばざらん。然るに佛人が率先して拓殖の難路を開きたるの土地は、其

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

後、多くは英人によりて長く占領せらる。英人の之に趨くや太だ遲し、而も一旦趨くや復た動かず、遂に住なれて第二の故郷とし、反つて其の母國の床しきをすら忘ぜんとするに至るは、何の故ぞ。他なし、英人が日常卑近の快樂を其の家庭の裡に求むるの故なり。佛人的理想の遠大なる望は必ずしも久しく人心を維ぐに足らず、常に日常家庭の不斷の快樂をもて情懷の悶を拂はずんばある可らざる也。拓殖事業に於ける家庭の感化は、此をもつて至大の勢力あり。

凡そ拓殖を要すべき新荒野には、花の艶なるもの少なし、蝶小鳥の風景を彩るものも稀なり、茫々漠々として、草生ひ木茂り、人家遠く隔たり、鷄犬の聲きこえず、桃李三月の天、たゞ惡獸毒蛇の近かんとするを危むのみ。此の時、如何かして樂を戶外の自然界に求めんや。朋友の來往なし、同に散策すべき處なし、俱樂部なし、宴樂なし、總て興ずべきもの一つもあるなし、夫れ此際に何の交情かあらんや。蓋し拓殖に於ける唯一の樂しみは、只だ唯だ之を戶內の家庭に於て求むべきのみ。

夫れ家庭の幸福は、すべての事業の成功に必要なりと雖も、就中、其の最も急なるもの、拓殖に於けるほど切なるはあらじ。試みに、世界の拓殖史より、日本近世の開拓に至る迄、如何なるが能く成効し、如何なるが遂に失敗せしやと觀察せよ。其の家庭の故に關するもの、格外に多き事實に驚嘆すべし。

明治新政府の開拓使を置くや、長官黑田淸隆、主として此の着眼あり。惟へらく、移住民の家庭をして健全ならしめんには、女子敎育を要すと。則ち、明治四年に女學生五名を米國に留學せしめ他日の女敎師に供へ、明治五年に先づ開拓使女學校を假設せり。其の女學に志ざすとの頗ぶる急なりしとを觀るべし。此に於てか、新日本に入り最も早く女學校を創設したるものは開拓使なり、最初に女學生の留學を斷行したるものも亦た開拓使なり。開拓長官の着眼は遠大にして且つ緊急に中れりと云ふべし。

爾來不幸にして此の設計は中廢したり。外國の女子大學を卒業したる最初の女學士は恙なく歸朝したれど、今の北海全道には、唯一ッの高等女學校すらなき也。

北方の拓殖に經驗すること二十餘年、帝國は新に南方に領土を

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

得て、茲に文明の新政を布かんことを宣言せり。惟ふに、台灣の家庭は一層に進歩すべき乎、台灣の女學一般に改善すべき乎と。圖らざりき、台灣の蠻民の間にすら固く守られたる一夫一婦の制度は、帝國文明の政治の輸入せられてより俄に破られ、此の美島に古來未曾有なりし公許の妓樓は、日本の新政と同に創めて建設せられたり。バークレー夫人近ごろ來京して都下に絶叫すらく、台灣の女風は帝國仁義の軍の入りてより墮落したりと。

嗚呼、拓殖に家庭の切要を言ふ所以のものは、其の清潔ならんことを望みて也。たとひ家庭ありと云ふと雖も、其の不潔にして和樂せざるものは、寧ろ無きに若かざる也。女風之によりて廢れ、一家之によりて團欒せず、兒孫之によりて健全ならず、勤儉之によりて立たざるときは、拓殖に於ける婦人の勢力は反つて其の害を爲すこと顯著ならんとす。嗚呼是れ婦人の天職ならんや、昔しはイスラエル人切に男女間の清潔を主張し、北米合衆國最初の移住民亦た嚴に此の清德を勵行せり。彼等が敎父の第一に此に着眼せし所以のものは、拓殖に於る家庭の勢力を洞觀したれば也。今の士人、先古の殷鑑を侮蔑し、明治初政の美を忘却し、徒らに形式の末に狂奔して浮薄の拓殖に急ならんとす。家庭と伴はざる拓殖は獨木を植たる如し、其の倒れざるものは稀れなり。況んや、此の家庭をして不潔ならしめんとす、生木の遂に森々たらんとは何によつてか望む。世人輓近の着目少しく淺きにあらずや、根底に植ゑざる樹木の遂に枝かれざるものは未だ曾て有らざるを知れ。

日本人の台灣に入り來るや、彼地の爲に大なる幸福あるべしと豫期せしに、實際は之に反し、二の著しき悪事を輸入することゝ爲れり。一は即ち飲酒の弊なり、支那人は男女とも多く酒を嗜まず、然るに近來此風盛んに流行するに至りき。他は乃ち醜業婦なりき。台灣人は品格ある日本婦人を知らず、日本を代表する者は實にかの醜業婦なりとす。（バアクレー夫人演説中の一節）

北海道には現に一ツの高等女學校すらなけれど、函館、札幌、小樽、みな其の創立に志しあり。たゞ憂ふる所は女敎師なからんとの掛念なりとぞ。蓋し北海道と云へば、寒き處、熊の居る所、昆布の屋根である所とのみ思ひて、容易に聘に應ぜんとするものなしとぞ。嘆かはしきにあらずや。

家こぼつ木立も寒し後の月　　其角

評論

基督教界の時論

基督教會の今日あらんとは、夙に明白の事にてありき。數年前大勢の推移して一朝其の機端を見すや、識者往々慨言して止まず。而も多數の教會人は見て異論となし、寧ろ遠ざけて顧みざりしが、看るべし、事實の經過着々として中り、教會の萎微益々甚しく、流浪の多き彌よ加はり、教師踵を接して去り、事業惣べて振はず。試みに明治十六七年以后の數年間單に歐米文明の輸入に乘じて一時の榮華を夢みたる當年の隆盛に比較せよ。一朝幻影空しく破れて、昔事の茫として前世の事の如くなるに感ずるの士や多かるへし。

夫れ、基督教の万國に於て優勝すべきは火を睹るよりも明白なり。維新以來其の勢力の年々に增加し來れる、もしくは、其の今后數年にして更に一大進歩を爲すへきと等の明白なるは亦た天日を見る如し。苟しくも識見あるものにして此の明白の事實を見ざるあらば、寧ろ盲にひとしとせん。吾輩の如きは、初めより毫も此邊の大問題に於て小疑をすら挾みたるにあらず。只だ年來幾分の愚論を呈して少しく當路の參考に供せんとせしものは、即ち教會の事たるのみ。凡そ基督教と基督教會とは同一のものにあらず。基督教會にして基督教を容るともあれば、亦容れざるともあり。基督教會の盛衰の基督教に影響するともあれど、亦全く關係せざることあり。抑も基督教の存するは、此の山、彼の山に限らるるとなく。寺院、聖處と稱へられたる所にのみ限らるるとなし。罪人の牢獄にも、稅吏の財嚢にも、寡婦の淚にも、異端視せらるる人士の赤心にも存在せり。左れば、單に基督教會の盛衰を見て直に基督教其ものの盛衰を斷言せんとする如きは、畢竟、痴見たるを免れず。古來如此き評論は多くは教會によりて衣食せる人士の間に行はる。これ其の一小天地を世界として、別に會外を見ざるの故也。これ豈に通論ならんや。

夫れ、基督教會の今日の如く成り行く可きは、當然の事にあらずや。就中、新教の諸派あるうち、一致、組合、メソヂス

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

トの如き其の教會堂に於て禮拜分子を欠ぐものに於て、特に其の衰微を見るは固より當然の事なり。我輩は此の衰微を見て寧ろ眞正基督教の爲の吉兆となす。これ人々眞に宗教的渴仰に進み、祈禱禮拜の崇嚴を希ひ、有がたくもなき理解的説教に信耳を汚さるゝことを好まざる反動の一現象なりとす。眞に基督教の進歩を望まんもの、何すれぞこれを其の憂ひとせん。

坊守は須からく坊守くさかるべし。苟くも宣教の職にあらんものは、今少しく超然として出世脱俗の氣韻ありたしなど論ぜしもの算す可らず。而して、當時、之を否とするものは言へらく、これ豈に佛教の衰へたる所以を擧げて再び基督教に用ゐんとするものにあらずやと。則ち、諸種の事業に手を出して、清俗を一つにせんと試みたり。當時暫らく其の才を此等の流用に燦かしたる士人、一朝、純乎たる宗教的傳道を渴仰する今の世になりては、藜の杖によりて、托鉢の謙遜を忍ぶと能はず、遂に其の本來の氣品に促されて、續々として教職を棄つ、之れ固より當然の數なり。今に及びて、何事をか歎ぜんや。

但だ夫れ大勢は石を化して人となす、風雲一と度到れば、器械も尙活動し、乙女も尙ほ預言すべし。凡そ聖職にあるものは、皆な脫俗非凡の廉潔者のみなるべしと言ふとなかれ。苟くも、人生の有機器關に服務して俗世界の組織に從事する以上は、たゞ其の中央主動の地に非凡の人を置くをもて可なりとせん。他は寧ろ其の勢動に從つて器械的に隨從せんのみ。此の器械をして活動せしむるの有無は、風雲と大勢と主動者との力量如何による。直に器械を責めて汝何ぞ更に活動せざると言ふものは、寧ろ迂論にあらずや。今や、器械たらんとを欲せざる俗務の才子頻々として世に奔り、得意の伎倆を揮つて現代の實業界に益す、これ寧ろ祝すべし、亦何をか憂ひん。吾輩密かに惟へらく、此の勢更に必迫して益す淘汰の機を密かにし、凡そ天品の聖職に適せざるもの、少しくは前期の大勢の故に隨從して此の職に來り今寧ろ其の用に適せざるものゝ如きは、須らく更に速かに聖職を去るべし。如此くして勢更に緊迫し、人更に減少し、機運衰亡の端に到達して而して後ち一轉の妙あらんと。吾輩は之によりて今の狀態の進行を期し、未必らずしも憂ひず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

悲しい哉、基督教會も亦た時勢の流行に伴隨せしのみ。初め盛んに西洋崇拜の輿論ある時や、基督教會は一代の風雲に寵せられて、西洋人を有力なる身方となし、之に兄弟姉妹の誼を交へて何事も相提携したり。所云る我國に於ける基督教會の事業なるものは、大抵西洋人の資金と助力とに依りたる耳。雲に聳ゆべき高塔も、千人を容るべき大伽藍も、幾多の雜誌も、會合も、男女諸種の學校も、皆な外來の資本を預算して設計せられたり。此時に當つては、基督教會の人士、豈に事業の困難と、資金の不足とを感ぜんや。其の元氣精神の發現驚くべきものありし也。然るに一朝國民內省の氣運に轉じ國粹自主の輿論勃興して、外國人と拮抗するをもて愛國心の如く、義烈勇猛なるかの如く感覺するの時勢たるに及んでは、日本教會獨立の議論漸くにして出現し、外國宣教師を非難するの聲頗る喝采を博することとなれり。此に於てか、曩に內外提携の勢に乘したらんものほど、更めて此の新趨勢に趨り、終始一貫の義を忘却し、因果約束の道をすら蹂躪して只だ時勢に後れざらんとするもの出來れり。

試みに觀じ來れば畢竟兒戯たるのみ。所詮は勢に乘じて狂奔する尋常の趣構に外ならず。亦何をか責め、何をか罵しるべき。假に同志社の事を擧げて一例とせよ。其の建設は故新島襄君の熱烈なる精神の致す所と云ふと雖も、過半は外國人の提携共同ありたるによれり。日本平民の獨力を以てしては、同志社の如き大身代は、未だ明治二十二三年の頃ほひに於て出來すべきものにあらざりし也。夫れ其の創立に於て既に內外人の提携によりて成就せり。左らば凡そ克終の義を一貫せんものに於ては、當に此の約束を嚴にすべき筈なるに、一朝一轉の時勢に乘して獨立論を主張し、其の當初の默契を打破したる如きは、頗る遺憾の事なりとす。

抑も、內外提携の事純惡にあらず、日本人獨力の事純善にあらず。凡そ如此き行爲は只だ事情の如何によりて利害を比較すべき耳。何ぞ必らずしも、之を是とし彼を非とすべけんや。但だ漸して破る可らざるは、初來の契約と、德義上の情交と也。然るに、一旦の風雲に狂ひて多年の情義を忘る。もし之をして輿論の逆境に於て處置せしめば尙少しくは恕すべきに、獨立論正に酣にして、天下稍やこれに狂熱せるの機會において理不盡に斷行す。もしこれを識見の短なるがゆゑとせ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ば只だ慣れむべし、驕然として之を誇らんとするに至つては、寧ろ皷を鳴らして責めずんばある可らず。

蓋し、外國人の資力を頼みとして、外國人を友とせず、之と共同の事業を執りつゝ、之に責を嫁せんとする如きは、我同胞の恥辱なり。吾輩嘗て曰く、外國人と提携するの人士、連りに事業の不成功を提携の故に歸す。一朝之と分離するに至らば、將た何人にか嫁せんとする、其の躬を責めずして他を責むるの結果知るべきのみと。看よ、外國人と分離したる後に於ては、彼等は十年の舊友相責めつゝあり。誰か政海の黨派を醜なりと言ふや、教海の黨派も亦た相似たり。もし仔細に基督教會の現狀を觀測するものあらば、誰か其の面白からぬ邪横に涙を拂はざらん。

左れど之も亦た一と度は經過せざる可らざるの關門ならん。政海に於ける各黨派の離合去年來極めて異數なり。十年の舊交容易く破れて、驚くべき變調を呈したる所以のものは、大勢大いに變りて、利害の調和顛倒したるに由る。凡そ如此きとは、機運一新の際に於て常に免がる可らず、もと利害をもて相迎合する士人間に在りがちの事なりとす。吾輩惟ふに、

基督教會の宗派別は殆んど有れども無きが如くならん、十年の舊關係は結べども解けたるが如くならん。而して此と彼との迎合殆んど經歴以上に逸し、將に人の意表外に出るものあらん、これ將來一年間に起るべき必然の出來事ならんと。

如何にも歎かはしきは、吾同人の宗教的組織に慣るると幼稚にして、而も一躰の外交術に迂遠なるは是れ也。吾輩は思ひ此に至る毎に、深く外國人の巧妙老練に歎せざるを得ず。昔しは、彼等がミル、スペンサー、ヘッケル、ダルヰン等の書を讀まざるを笑ひ、其の神學論の如何にも頑固淺薄なることを嘲けりたる吾同人間の青年は今や、年功の積もれるによりて、些さか彼等の世故に長けたるとを觀じ得たるものもあらん。

客氣短慮にして理論に僻し易き吾教會人は、幾度か其の飜弄を受けたり。今や彼等の隊伍整々として別に新運動を創めんとするを見て、少しく意外の感を起し初めたるものもあらん。亦た一科業を學び得たり。

基督教も亦た宗教の一なり、他の宗教家と相爭はざるへからざるの理由何處にありや。君子の相爭は道に於てす、これと相

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

話するを不可とし、之と相交るを不可とするの理由何處にありや。もと理由あるとなし、但だ舊來の慣習によりて異樣となすもの多きに際し、宗教家懇話會なるもの催されたりき。凡そ明治二十九年度の宗教界の討論、此事を、是非するの聲の如く喧しきはなかりき。而も、今に及んでは人之を珍とするの元氣あるなし。更に來年に及べば、曩に之を異樣とせしとを自から笑ふに至らんずらん。如此き只だ時勢の推移によれる耳。

去年切りに旗幟鮮明の聲を聞き、續いて正統教會の聲を聞けり。之に幾分の元氣ありしとは疑ふ可らず。左れど、旗幟を鮮明にすれども集まるものなく、正統教會を揚言すれども、脫走するもの彌よ多し。基督教の生命の中心點必らずしも今の教會に存せざるにあたりて、教會即ち基督教なりと斷言し、僅に忠實に來會する眞摯の信徒に對して日曜毎に不平の談を說法す。酷遇も亦た太甚しからずや。信徒皆な倦厭して、只管崇嚴の眞宗教を渴仰す。今にして早く法調を變へざれば、殿餘の忠人も亦た將に奔らんとする也。

凡そ、一事業を成す十年にして少しく耳目あり、二十年にして稍や手腕あり、三十年にして初めて意を安んずるに足るべき也。尋常の事業既に然り、其の最も高尙なる靈智精神の事に關するものに於てをや。苟くも、大志あるものは決して功を急ぐべからず。因果の極めて嚴明なるに寅畏して、僥倖の斷じて賴む可らざるを知り、額に汗し、眼に血涙をを含みて徐々として事に慣るるの神聖を樂しむとあらば、基督教會と其事業との一成一敗の如き、豈に何ぞ同胞相鬩ぐの料となすに足らんや。惜しむべし、近來教會の士人、殆んど末期の觀あり、其の狂奔最も見惡くき也。語を寄す、吾輩同信の人士、少しく思を緩うし、氣を平かにし、徐に光明を望んで莞爾として主の道に盡瘁せよ。

あはれさはなれも見るらむ我民を
思ふこゝろはいまもかはらず

よそにのみ思ひぞやりしおもひきや
民のかまどをかくや見んとは

後醍醐天皇御製

女學

各地女風俗の報告を求む

一名、婦人社會の研究に就て

敎育に頭足の二つあり。一つは敎育上の理想にて、ただ一向に學生をして上進到達せしめんヿを期する前途の目的なれば、申さば其の頭の如し。他の一つは敎育上の實際にて、學生が生活する現代の風俗人情に關し、其の時處位相應の適宜を計らひて、餘り掛離れたる空想に走らしめぬヿを要とすれば、言はば其の足に似たり。此の足をもて現在の地を踏まざれば、敎育は活世界の益とならず。同時に彼の頭をもて將來の望を立てざれば、敎育も亦た俗界の俗事となり了らんのみ。吾人本誌の上に理想を說くヿ寧ろ多し、此の度各地の女風俗を研究して讀者諸君に見さんとする主旨は、事の實際を顯さんとて也。

蓋し人情風俗は、人の智德の尺度權衡なり。之によりて宜しきを計らざれば、何事も相應の度合に適せしむるヿ能はざるべし。十二一重の美人の裝は艶なれども、之を七八才の少女に用ゐんとすれば恰好惡きが如く、何等の麗はしき高尙の敎育なりとも、一概に粗野未開の地に施さんとすれば大方は失敗すべし。此をもて敎育者は頗る人情風俗の研究を重んず。凡そ風俗の異るは古來土地の懸隔したるに由緣するヿ多し。左れば、平原つゞきの地にありては、假令遠くとも左程の相違なけれど、險しき山一つ、荒き海數段を隔てんには、假令近くとも餘程の相違あるべし。これ交通の不自由なるによる。夫れ交通不自由なれは、風俗自から相異り、風俗相異れば、人情亦隨つて變ず。扨て古へにありて交通の最も自由ならざりしものは、婦女子に若ず。各地の婦女子の相隔たる距離は、其男子の相隔たる距離よりも尙ほ遠しと云ふべし。各地婦女子の風俗の一層甚しく相違ふものは此の故なり。

茲に吾人女學の研究に一助せんヿを欲して、斯の如き風俗の調査に着手し、廣く同志の報道を求む。則ち假りに調査の題目を列擧して、着眼の便に供す。同志の諸君此に準じて、調査報告の勞を賜はるあらば、啻に吾人の幸福に非ず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎調査項目の解

一　男女交際の有様

（未婚の子女の交際に關する世間の制裁は嚴なるか寛なるか。男尊女卑か否や等）

二　家庭に於ける女兒の狀態

（家風庭訓の及ぼす教育上の特色ありや。女兒の遊戯、玩具、手傳等に於て特に目立つものありや等）

三　主婦の義務、勢力、財産等に於ける特別の狀態

四　下女の風習、其雇入の方法規約、彼等が風儀、及び下女に對する家族の態度

五　女子嗜好の傾向

（茶、花、琴、歌、又は義太夫、芝居、小說、常盤津、清元、三味、踊、賭博弄花等、其他の遊戯

六　婦女子勞働の狀態

（勞働の時間。一日の平均賃錢。幼女の勞働者ありや、一般婦女子の勞働増加せるや。工女の風儀。婦女の從事する職業の種類。婦女の勞働過度なるとなき乎。男子の勞働に比較して輕重如何。婦女が職業を撰擇する自由の有無。婦女勞働者は生計を支へ得るの賃錢を得る乎等其他）

七　婦人慈善事業の有無、組織、景況、及び勢力

八　婦人會の有無、組織、景況、及び勢力

（女同士の談話交際遊戯、又は觀音講の類を含む

九　婦女子の教育に關する一般世間の意向、女學校の景況學齢女兒就學の割合等

十　女學生の風紀、修學者の增減、其志望の傾向等

（女學生の主婦たる家庭、其歸鄕後の實蹟等を含む）

十一　婚姻、離婚の方法、及び再婚に對する世間の思惑

（早婚の弊なき乎、夫婦年齢の懸隔甚しき者なき乎、初婚大凡の年齢、婚姻の儀式簡畧とならざる乎等）

十二　女子の風俗

（年齢に準ずる頭髪の結ひ風、帶の結び方、涅齒眉剃は何程まで衰へし乎。茶屋女、私生兒、密賣者の增加、婦人の飲酒喫烟。ことに交通、教育、興業等によりて影響されし近年女風の變化等）

十三　殊に目立ちたる女の服裝、はき物、手廻道具等

十四　宗教上に於る婦女子の信仰、事業、勢力（女子の特に歸依信仰する神佛の名稱、願かけ、願文、お禮參り、及び寺院祭禮等に於ける女子の風儀等を含む）

十五　尼、巫女、妾等となる婦人（土地の婦女多き乎他所のもの多きか、貧窮の爲か風習の爲か、又は醜業者より轉ずるもの多きか等）

十六　女子の言葉に關する特別の氣付き

十七　女先生、女先輩、又は婦女の有力者にして、其地方の婦女子を感化するもの並に其姓名小傳

十八　婦女子に關する有名の古跡、口碑、並に其小史

十九　婦女子他國への出稼の有無、增減、行先（何地方に多く行くやの事）、及歸宅後の狀態

二十　密賣者及び藝娼妓の稱呼並に此等に對する憎惡の輕重（醜業に對する勸誘の嫌ひあらざる乎、醜業者に對する特別の躾の有無等を含む）

◎寄答者への注意

一　紙上に匿名の記載を要せらるゝ仁は別に本名及び住所を添へられたし

一　寄答の原稿を女學雜誌女學欄に掲載したる時は、寄答者に該號の雜誌三部を進呈す

穆山大禪師の母鬼婆

穆山大禪師は方今禪海の秀品なり。青森縣下八戸に近き港村と云ふ小さき村落の產なれば、ことし夏八月、侍僧數人を連れて暫らく滯遊せられし際、一夜某寺にて其の履歷談を語られたり。時に雨肅々として門外人往來せず、參詣の人も多からずありしかば、禪師は最とくつろぎたる躰にて微笑みながら在のまゝの物語りせられけるとぞ聞えし。禪師の家は最と貧しく豆腐屋を業とせしが、借財ありて彌が上に生計苦しかりし。前妻身まかりて后妻來り、此の后妻の腹に禪師出生あり。前妻に子一人ありしが、后妻即はち禪師

の母は、正直一徹の質なれば、繼子實子の區別を置かず、惡しき方は容赦なく嚴しくせられしに、あやにく繼子は愚しき生れなりしかば、母に叱らるること多く、ちとの取つくろひもなかりし故、近邊の人、稱して鬼婆と云ひ、日夜鬼婆の叱る聲の恐ろしきをのみぞ評判しける。

左れど、此の鬼婆の嚴正なる內助によりて家政の倒れかけしもの少しく維持せられたり。鬼婆は一心不亂に借財を皆濟せんとし、數丁さきに名高き風景の處あれど、足未曾て此處を踏まざるほどにて、無用の事には一寸も心をゆるめざりしとぞ。

穆山、幼き時、村の緣日にノゾキ器關を看て、地獄、極樂の畫に驚き、痛歎禁じがたく、家に歸りて母に問へるやうは、地獄には如何なる人の參ることにやと。母の答へに、お母さんなどは、必らず地獄に行くなるべしと、穆山、絶叫悲泣して、左らば、父は如何ん、兄は如何んと問ふに、皆な同樣なるべしと言はれて、彌よ泣き、如何にせば左樣の苦しきとは免かれ得らるべきやと問へる時、母の曰はく、もし一人出家して僧とならば、九族に至る迄で救はれて極樂に行くべしとありと敎へしに、然らば兒は僧とやらにならんと言ふ。母の更に曰く、僧となるは宜しけれど、俗僧となりては其の罰一層に恐ろし、九族また無間地獄に落つべし、汝もし僧とならば、天下に名ある名僧ともなるべし、然らずしては再び母を見ることを得じと勵まされ、恐喜半ば〳〵に家を出で、或る禪寺に入つて小僧となりぬ。

苦學二十年、一方に名ある僧となり、縣下著名の禪寺に住持したれば、數人の侍者を從へ、さこそ母の悅び玉ふらんと歸省したり。母よりも先づ村人の隨喜大方ならず、かゝる村より生佛の出生ありしこそ、奇代の果報なりとて、懇待渴仰驚ろく許りなり。左れど、母は極めて不興にて、穆山に言ふやう、汝、出家の時、何とか申せし、名天下に聞ゆるほどの大德とならずば、出家は反つて母を無間地獄に落すものなりと言ひしに非ずや、汝、今ま一寺の住僧となり、一方に多少の名を知られ、數人の侍者に從はれ、村人の歸依を得たりとて。即はち滿足する乎、左程の小さき念願にて大慈大悲の佛心を悟らんとおもひもよらずと叱せしかば、穆山、忽然飜悟し、たゞちに侍者を散し、山寺を退き、飄然一寒僧となり、晝

は托鉢して僅の喜捨を得、歸途、貧乏德利に一合の酒を買ひて歸り、夜を徹して書を讀む。もし睡氣催し來れば、指頭に酒滴を浸して舌を刺し、復び讀む。如此して曉に達し、人やうやく覺むる比ほひ、殘れる酒を一口に飲了し、暫時就眠して直ちに起き又法務に就けり。

斯の如くして三十年、遂に穆山の名天下に聞ゆるに至り、一宗の管長ともなれりしとぞ。

穆山、此等の履歷を語り了りて、扨て言ふやう、余をして今日あらしめたるものは、鬼婆なり。鬼婆によりて、法士は生れたり。余は諸君に告ぐ、諸君の母も御內儀も成るべく鬼婆となられんことをと。

比丘尼に就て

ちやうてい

釋迦牟尼一だひ道を說いて、其夫人耶輸陀羅女之に從ひ、鬢髮を剃りて、佛門に入るもの之を比丘尼あるの始とすとぞ。

佛敎我國に渡來するの當初、敏達天皇六年百濟王、經論律師、禪師、比丘尼等を貢獻するあり、後七年にして、司馬達等、其女善信等三女を度して尼となす、これより我朝比丘尼の徒今に至りて絕えず。左大臣豐成の女中將姫の十七歲にして和州當麻寺に出家したるあれば、人の寵愛、身の榮華、更に賴み難きを悟りて、嵯峨野の奧の尼となれる祇王祇女佛の如きあり、これよりなるか、尼といへば先づ嵯峨野の秋の哀をぞ思ふ。平家の沒落に六道輪廻を觀じ給ひし大原山の尼門院あり。維新以前までは、皇族攝家の男女子法躰となるもの多くいまして、妻子珍寶由來穢土に等しき法門も、これが爲めに光を增すとありき。上野の宮、仁和寺の宮今は還俗ましまして、あの〳〵陸軍大將の宮と仰がれたまへりと雖も、なほ村雲日榮尼公の如きはいます。

今、二十七年末の統計によりて、全國尼衆の現在數を知るに、一寺一庵の住職たるもの、七百十八人といふ。東京には二十人、愛知には最も數多くして、百〇三人なりとす。さればまた七百十八ヶの尼寺は、全國處々に散在せるものと知べし。尼衆生徒また總計三百五十二人といふ。而して以上の統計に洩れたる比丘尼の數必ずや尠きにあらざるべきなり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

また比丘尼を養成する尼衆學校なるもの、諸宗にあり。現に東京小石川傳通院内には淨土宗に屬するものあり。尼衆生徒の最も多きはこの淨土宗にして、全國二百人なりといひ、之に次ぐは臨濟宗にて、同八十人といふ。眞、曹洞、法相、華嚴の四宗には皆無なるが如し。之を以て推考すれば何宗最も多くの比丘尼あるやを知るに足るべし。

昨年の春頃は佛教界の二三雜誌にて、佛教婦人傳道を論じて、在家の優婆夷にして、衆生濟度に力を用うべしと主張したるものありしが、幾許の影響ありしやは知らず。近頃はまた比丘尼の教育に就て云々したるもの反省の鏡の如きあり、また素とは此雜誌の本流なりし、反省雜誌は、佛教を議し、僧侶を論ずるものありて、比丘尼を論ずるものなく、また比丘尼界の形勢を熟知せず。たゞ三河の國に有力ある比丘尼衆ありて、或は往年の東北震災を救恤し、またシカゴ大博覽會に對つて、佛教學會が、英文大乘佛教大意を寄贈するに當りて大に力を盡したることを耳にすれど、其他は杳として何等の消息をも傳ふることなしと述べつゝ、世の比丘尼たらんと欲するものに勸告す、寧ろ看病婦となれ、誦經禮拜は佛教の形骸なり、濟世利人は佛教の骨髓なり、比丘尼となるは形骸を甜るものなり、看病婦となるは骨髓なり、既に比丘尼たるものも亦兼て看病婦たれ、看病婦界の主權比丘尼の執る處となれかしといふあり。如斯きの希望は得て達せらるべきや否やを知らず、兎に角に其得道の如何はさて置き比丘尼となりて、山寺村院に隱棲して、寧ろ世の煩を遁れて安らかに送るもの、漸次に其數を減ぜんも、なほ永く現存すべきなり。彼等に望んで、むしろ看病婦たれといふは、やゝ比丘尼たるものが境遇の本相を察せざるにてはなきか。

寺院は多し、されど何れか比丘尼の住する處なるか、尼寺なるもの今日もなほ存在するやとさへ疑問するものもあれど、實際前に擧げたるが如き多數の尼寺は國内に散在し、現に東京にても二十ケ所程の尼寺はあるべき筈なり。たゞに尼寺のみならず、僧寺にして尼衆の寄寓するものも尠からずとぞ。近く時事新報は、東京の尼寺の狀況一斑を示すに、主なる尼寺四を擧げたり、即ち東大久保村なる西向庵、赤坂青山の善光寺、淺草今戸の蓮華庵、本所荒井町の感應寺これなり。記述せるものゝ梗槪をいへば、

西向庵　は文化七年中淺草の藏前の札差出口某の老母の建立にして、現住は東園蓮瑞といひ、子爵東園基愛氏の令妹本年三十七歳なり。權大講義の職を拜して先年紫衣を下賜せらる、慶應元年以來當院に住たり。徒弟二三人あり、中蓮寂といへるは子爵植松氏の令孃にして當十八歳なりといふ。

善光寺　現住八幡祐観はもと山城國愛宕郡の人なり。當年六十八歳。徒弟中に子爵平松時厚氏の令孃直子八歳なるあり。

感應寺　德川家光の建立せし處にして、現住輪島聞聲はもと北海道松前の人ななり、本年四十六歳とぞ。曾て傳通院故福田行誡師の徒弟なりしぞ。徒弟四五人ある中に、善光寺なる平松子爵令孃の令妹貞子六歳なるあり。

蓮華院　現住撰定中のよし。

たゞに以上の三例によりて見るも、縉紳者流の娘子して飾を撤し、薄染の法衣を纏ふて、女人成佛の本願を專一とするもの尠からざるを見るべし。なほ全國の尼衆の狀態を研究すれば、此類のもの多かるべく、殊に五畿內中には其數あるべし。而して縉紳者流より出づるものは、概するに其父祖が佛弟子たりし縁に因むものなるが如し。さる類は暫く措く。凡そ去り難き家を出でゝ佛門に入り、乞食躰の比丘尼衆なるの由來は、詮ずるに此世の愛情はた生活に失望したるものなるべくして、爰に比丘尼發心の因縁の一例として時事新報の述ぶる處によりて、左の一話を示す。

前にいへる感應寺の徒弟にて妙運といへるものあり。今年四十四、俗に在りては日本橋區横山町三丁目阪庄兵衛の三女ウタといへり。十九歳の時京橋區本湊町三丁目今泉某に嫁せしが、宿世の縁なればや、不幸打つゞきて家運衰微し、剰へ夫死して後、家を傳ふべきの一子なし。額なき身の行末を傾ひながらも、家道の挽回に心を碎きつゝ、また亡夫の菩提の爲、かつは家運長久の爲め、熱心に毘沙門を信仰して、六字の名號を唱ふること日に一萬遍なりしが、不運更に追及して、さる時、烏有の災に罹りて、家財悉く空し。これより繩を綯ひ、他人の衣を浣いで活計となしつゝ傍ら貯蓄を心掛けて、遂に五百余圓の負債を皆濟せしかば、此上は最早家道を思ふの要なきを以て、爰に飾を落して、出家得道の身となりき。其はじめ感應寺に到りて、出家の志を告ぐるや、住職聞聲は尼となるの望は達し易きに非ざる旨を諭して、其請を諾せざりしも屈せず、日々同寺に到りて、或時は其軒下に夜を明したることさへありて、其志の殊勝なるより、聞聲は遂に許して徒弟たらしめたるは、去る明治二十七年一月の事なりしとぞ。それより淨土宗尼衆學校に入學して、本年六月之を卒業し、今後諸國の靈場を巡禮して、先祖及亡夫の菩提を弔ひたる後、歸京して、我が俗姓に因みて今泉庵てふ尼寺を建立するの志ありといふ。

此比丘尼の如きは通常の婦人としても實に感賞すべき行蹟あるものにして、其志の凡ならざるより考ふれば、得道の程も思ひやらるゝなり。この妙運の妹尼なる智運といへるも、もと日本橋區なるさるフランネル問屋の娘なりしが、夫の無情なるを嘆くが甚しくなりて、捨身出家したるものといふ。

自らは世を捨てたりとはいへ、社會觀察者の眼よりは遁るゝ能はざる彼比丘尼は、自今必ずや佛教界の一問題たるべく、而も女性社會の一異現象として注意すべきものなり。

名にしおふ明石の浦の月なれど
都よりなほ曇る空かな　　菅家

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

クロンダイク金坑の發見は米國婦人

近頃一艘の帆船北米の極端なるアラスカ州に立寄りて、不圖もクロンダイク(Klondike)に於て一大金坑を發見したるに、其地金塊を出すこと夥しく、採掘の勞甚だ尠く、殆ど落ちたるを拾ふが如くにして、収獲極めて多く、一坑夫にして、七十五万弗を得て米國に歸るものあり。加奈太の首相ラウリエ氏の如きは、之を稱して世界最大の金坑なるべしといひ、今日の如くに貴き金塊の相場も或は下落を來たさんとするの勢あり。さらでだに拜金の熱盛んなる米國人は此好況を聞いて、手の舞ひ足の蹈む所を知らず、カルフオルニア金坑の發見當時の狂熱は再び繰り返へされて、全國知る處に、クロンダイク！クロンダイク！の聲絶叫せられ毛衣を纏ひ銃を肩にし、續々此北地の遠征冒險を企つるものたゞに男子のみならず、女子と雖も、狂奔の度一歩を讓らず、隊伍を結で之に赴けり。既に紐育に於ては、ヘレン、ヴアリック、ボスウエル孃といへる一女子を會長として、アラスカ遠征協會の組織せらるゝありて、明年三月一日北極の氷雪やうやく融くるの機に乘じて、四十人の遠征隊、クロンダイクを差して出發せんと企つるなり。意氣頗る盛んなりといふべし。何れか山何れか川、たゞ見る千歳解る期なき積氷累々白皚々たるアラスカの不毛荒瘠の地、今や一獲千金の富を慕ふの米國男女を以て充滿せられんとす。

如斯く一方に於ては一朝にして暴富を致さんことを冀ふもの續々群をなして、彼地に到ると共に、彼等に伴ひて惡風害弊の橫流また免ぬかるべからざるを慮りて、之を矯正豫防せんが爲に婦人矯風會は、勃然として、此に亦活潑々地の運動を現出し來りたり。忽ちにして、該州に四ケの同會合起り、一旦衰微に歸したるアラスカ州聯合婦人矯風會また復興し、州知事の妻にして、同聯合會の前會長たるシヨン、ザー、ブレーデー夫人を擧げて會長となしたり。未だ弊害惡徳の多く行はれざるに先だちて、遠征者坑夫等の墮落を警戒せんとするの此禁酒矯風運動を見るその意氣も亦熾んなりといふべし。

素より我邦の婦人社會の俗を以て、米國の婦人社會の擧動を評すべきに非ず。また我婦人をして悉く彼の女子に傚はしむることを望むべきに非ずと雖も、事々に當りて米國婦人の運動の活潑にして、また効益多きこと万邦他に殆ど其類を見ること能はず、彼等の如きは當に以て天下の女子の中にて最も目ざましきものと稱すべく、其意氣の軒昂、一歩をだにも男子に讓らざることは、亦以て人類の進歩に寄進する處必ずや尠からざるべきなり。

西京女の勞働

京女郎は、いと美しくて、なよ〳〵しなるものゝ稱に非ずなりけり。其特長の性質を利用せられてと、まめ〳〵しき働きをなし、外へ出て男の役をも勉むると、東京女の及ばざる處あり。高利貸の借主に向つての取附、盆暮の掛取、遊女屋の掛取、肴屋の錢集めなどは、これまでの働き口なるが、近頃はまた新聞雜誌の集金方をもなし、嘗て大阪毎日新聞社より始まりて、同地の内外新聞用達會社を始めとし、外二三の新聞雜誌賣捌處は五人乃至十人の女を常に雇ひ置き、集金の時は必ず之を用うとぞ、また牛乳の配達、夜店の賣子などにも出づとぞ。東京の煙草屋の美人、書生の愛顧を引く類も西京に流行し出したりとぞ。序に曰ふ東京神田には近頃女の理髪店ありて、甚だ繁昌すとぞ。至極妙策にて、之が爲めに淫猥の風を釀すことなくんば、理髪師の如きは女子に最も適當したるものなり。

◎夫婦の下宿住居

近頃東京市内の諸物價、騰貴すること甚だしく、家賃をはじめ下女の賃金も五割方以上の暴騰を來したるが爲、二三十圓内外の収入に生活する判任官位の官吏、會社銀行員等にて、妻子を有てるものにして、經濟上かつは便利の爲近時盛んに下宿屋または、小商人などの坐敷を借りて生活するもの增加し來りたるよし。此風追々に流行し、二階三階の借間に一生を暮す家族あるこそ西洋の如きに至ることもあるべし。

猿を聞く人捨子に秋の風いかに　　ばせを

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

露さく／＼試みに浮世すゝがばや　　ばせを

獻言

天才と凡才

青柳有美

今日の家庭教育に於て、最も悲むべきは世界の天才を傷ひ、之を殺すほどまでに至らしむるの一事なり。凡才はその名の如く、平々凡々の儕輩にして、衆にぬきんで、萬人に異りたるの機軸を出さず、通俗普通なるものなれば、敢て人を驚かしむるの行動なく、世を罵るの言想あらず。その歩む處は凡俗の道なり、その依る所は古傳の習法なり、しかも、上長の命旨社會の制裁をもて、上なきものと想思し、之を懼れ、之に遵ふこと、神に於るが如し。故に子としては、順良の孝子たり、學生としては、教官に逆はず、所謂良民を以て目視せられ、世人上長の愛寵を受くる甚し。然れども、今や世は孝子良民に食滯せり。よろしく亂臣賊子を出すべし。亂臣賊子もとその名の質に非ず。迷へる凡民、かすめる眸子が、誤り觀じて相稱へたるの迷語のみ。何ぞ知らん、世界は數々この大奸に醉され導かれて、開達進善するものたるを。夫れ天才は異數なり。奸物賊子の稱を得る、亦宜らずや。

愼で心ある大方の父母兄姉に寄す、願くは、その子弟の常道に習はざるを見て、咎め責むること勿れ。世間齷齪の徒輩がなす所に則るなきに慣り漫に、騒ぐこと勿れ之れ天才の常なりと知るべし。天才は、なすところ、行ふところ、凡俗とその軌を異にす。彼等が見て以て奇しとするものは、その特に好み欲する處なり。人、法王の權難有しと隨喜するも天才は羅馬の高御坐呪はるべしといふ。人、生を欲し財貨に執着す。天才は曰く、死するは生くるの謂なり、眞理は黄金に勝ると、則ち、家を毀て薪となし、家産を傾けて寸分も惜しむの色なし。常道に外づれざれば、新らしきことなく、新らしきことなくんば進歩あるべからず。故に一時一處を教導せんとして、皇天上帝の送り給ふ天才は、亦常に奇才たり。今の社會この

忝けなき賜物を容るゝの大量なし。凡才の蠢々をもってして、いかんぞよく天下を開化するを得ん。されば、天才は、鈴をその頸にかけて、銑々群羊に行く所を示す智き羊の如し。凡才その後に從つて、始て天下の大道、人生の大德を知り、時處位に處して謬ることなきを得べし。凡才ありて天下に山をなすも、天才の降下するなくんば、假令へば、薪の積まれて火なきが如し。これぞ、天才の難有き所以なる。されど人、その狂に似、往々不德の色あるに思ひ至り、直に世間の規矩準繩に鑑みて、是非を判ぜんとす。至愚も亦極まれりといひつべし。天才は、天の才なり。孑々たる道德焉ぞよく之に及ぶべけむ。況んや、豆売の如き社會の習俗慣例、素より天才の大いなるに比ぶべくもあらず。小德は德に非ずとは、蓋しこのことならんか。世の父兄にして、これ等の消息に通ずるもの稀に、徒に小節末枝に齷齪して、天賦の大才を煥發せしむるの道を知らず、あたら鳳卵をその初生の間につぶす、歎くべきことならずとせんや。

かくの如くに天才の功德高大ならば、多數の凡才は其命運の不幸を悲み、宿世の因緣に泣くべき乎。萬人皆な悉く天才たり奇才たる果して歡喜すべきものたる乎。天もし世界をあげて、狂氣の團塊たらしめんと欲せば、乃ち止む。然らずんば、天才の士の我儕の間に少く、百中僅かに二三あり、特に所謂大天才なるものに至りては、幾百年の間全世界の上、たゞ一二あるに過ぎざる、蓋し所以あり。天才の大になすを得るは、許多の凡才その左右にあり、その前後に侍し、之が手となり、之が足たるがためのみ。凡才なくして天才なく、もとより進歩なるものあるべからず。なほ薪なくして火の炎々たるべからざるが如し　我儕もし身に病あれば醫師來りて水藥を與ふ。然れども其大部はこれ水分にして、眞に病を療すの力あるもの、頗る少量なりされど藥の功益豐なるは、水の藥力を稀薄にするにこれよる。水なくして藥粹のみあり、必ずや腸胃を傷ひ病を治せず、却てその勢を助くべし。酸素は人躰一刻も欠くべからざる必需のものたり、しかれども空中これに和するに多量の痴鈍なる窒素を以てす。こゝにおいて其効驗初めて明けし。人もし窒素なきの大氣に棲息せば、酸素の性狀過甚にして、皮膚を爛らし、鼻口を燒き、心氣を狂發せしむるそあるにいたらん。それ天才は、猶ほ酸素のごとく。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

なき藥粹に似たり。凡才の之に和するなく、天才又天才、天下遂に天才の外、一人の人なきに至らんか、世は狂し、人は醉へるが如くなるべし。社會に進步あり改善あり、しかも平穩安和なるは、天才の甚だ稀れにして、凡才の夥しきものあるにこれよる。然らば、人自らの凡夫にして、聖人たり先覺者たる能はざるに恨み、之を呪ふべからず。須く天恩を拜謝し、天才の導くところに赴きて、その職責を全うすることを希ふべし。

すでに凡才あり、又天才あり。之を敎訓育導するの道、自ら異ならざるべからず。

古來天下國家のために百年の大計を案じ、一世を驚動指南し、或は百世の下、一切衆生を濟度するの聖德ありし聖人賢者の、學校より出でしものあるを聞かず。我等數々之を言ふ、今や世間亦このことあるを知るもの丶如く、或は極に走りて學校敎育の價値如何をさへ疑ふ。然れども、退いて詳に考察熟思すれば、これ理のまさに然るべきを見ん。それ學校は凡才を敎育するの塲所なり。苟も一代の政治に著しき變革を來らし、一世の思想を左右呼指せるが如き大詩人大哲學者の輩は、是れ天の降し給へる大才なり。故に之を學舍に入れて窮窟なる校則學課に拘束せんとするも、必ずや得べからず。なほ猛けしき獅子を捕へて、小苦しき檻內に閉ぢこめ、或は大容積の瓦斯を壓縮して、小器のうちに押し詰めんとするが如く、勞多くして益尠きの業なり。獅子王之を漠々たる曠野に放てば、始てその一聲一吼に百獸畏れ、萬禽翼をつぼむべけんも、動物園の獅子は、たゞ觀客の樂みどよめくの材たるに過ぎず。なほ鹽の其味を失ひたるに似たり。天才を學校に送り其敎育に益あらしめんとす、獅子を檻に入れて、其特威をそがざらんとするが如く、愚なるの極みなり。大德大道に通ぜざる敎官、あゝ是れ實に天才を殺すの大罪人にして、その叱咤怒轟は、是れ天才を刺すの劍なりと知らずや。つまらぬ道德論も水泡の如くフヰロソフヒーとは、其手足を縛るの鐵鎖なり。あゝ天才、如何でかこの齷齪に堪ふべけん。故に一たびは學校に入るも、半途その校を出ること比々皆なこれなり。未だ大學に學び、二歲を越えてなほ止まれるもの、多きを聞かず。詩人バイロンの如き、詩人カウパーの如き即ちこれなり。近くは紅葉美妙の徒、又高等中學の落第生なりと聞く。それ『天

才』は讀んで字の如く、天の才なり。人の子に非ず。故に天は自ら大能至仁の御手をひろげ、萬靈を四圍八紘に放ち、眞善眞美の天地により、人類の妙氣により、之を陶冶誘導すべく、敢てつたなき人間の工を借り入れ給はざるべし。然れども世の父兄、この至妙の神案に感通せず、徒に天才を破ること多し。殊に學事の成蹟上らざるを見て、之を譏るが如きは惜むべし、よろしく、悠々放樂自適せしむべきなり。自然教育、これ天才を待つの、最上教育なりといふべし。天下國家を稗益する人才の、學校に出づるものまれなるの義、是に至りて掌を指すが如しといふべけむ。

更に警告す。天才を其子女にもてる父兄姉よ、乞ふ之をして酒に觸れしむる勿れ。酒の天才を賊すること、齷齪たる家庭及社會の制裁苛酷なる制裁に異ず、恰も窮屈なる學校教育の如よく之を殺すものなり。我儕が既に述る如く、天才元來狂に近く、このことや亦生理心理の學者の、くはしく説けるところにして、天才と狂氣との別るゝところは、僅に一薄膜に過ぎず。天才もし誤て一たび病めば、狂夫となり又痴人たるべく、もし幸にして順當の發達を遂げば、有爲の人士たらん。

故に曰く、天才は狂に走るの傾あるものなりと。これに酒を與ふ、酒は狂水なり。天才のために蒙る影響それ如何。なほ火の油を得ては其焔を高むるが如く、狂熱前に百倍し。精神錯雜朦朧となり、遂に事理を解するなきに至らずんば止まず。悲むべし、世上幾千の天才、已が鬱屈不平を愈さんとして、この恐るべき酒に隱れ、遂に天下を救ふの大任を負ふてオメオメその身を益なきの破滅に歸し終らんとは。これを天才多く自殺し多く發狂するの所因となす。そのこゝに至る、素より胸中言難きの煩悶痛苦あり。憂慮耐へ難きによると雖ども、酒精のその頭腦を亂すに力を添ふるは、否むべからず。想ふてここに至れば、透谷北村氏の如きにありても、幾分の恨みなき能はず。氏の靈願くは我が無禮を咎むる勿れ。故に重て曰ふ。天才をして杯に手を觸れしむべからずと。これ實に天才を愛寵し衆生を濟度し、世道に補益あらしめんとするの念、切實なるがためなり。

凡才に至りては、よろしく學校教育を受けしむべし。社會の制裁をして嚴密ならしむべし。然らずんば、人性を全うして、その職責を盡くさしむること難し。それ天才は野生の松柏の

如く、凡才は稻草に似たり。松柏をして大風大雨に當らしめ、恬として顧るなく、所謂天然敎育を受けしむるも、何の障害あらず、却てその質實を堅密にす。然れども稻草に至りては、之と異る。大風大雨は、その耐ふる所に非ず。人常に傍にありて、水灌がざるべからず、草抜かざるべからず、肥料施さざるべからず。然らざれば萎縮枯死せん。天然敎育なるものゝ、凡才の得て耐ふべきものに非ざる亦此の如し。天然は餘りに曠大深遠にして、その眞善眞美は、彼等の眼力に及ばず。故に人爲の敎育薫化を要する、實に大なり。これを凡才に學校敎育の必用なる所以となす。

あゝ滿天下の父母たり、兄姉たるもの、己が子弟の性能に觀じて、その敎育に斟酌あるべし。凡才には凡才敎育の道あり。天才には天才敎育の道あり。そのけじめを辨知して、施す所を覺る、之を慈悲ある親といふ。今の時は凡才に飽きたり。乞ふ天才を殺して、天下の寂寥を增さしむるが如きことある勿れ。天才は、天人なり、神の聖子なり。

はせを葉や打かへしゆく月の影　乙州

◎天才に就て

天才の研究は此頃歐米學界の問題となれるが如し。天才と身長に就て研究したるものによれば、一般に天才は身幹短矮なるものに多く、大男總身に智慧が廻り兼れといへども、事實上、天才は身幹長大なるものに最も多く、短小者之に次ぎ、中等なるものに最も尠しとぞ。而して今、この古今の天才を身長に從つて類別したるものゝ梗概をいへば、詩人文學者にては、バーンス。カーライル。コルリッヂ。デューマ。ホーソルン。スコット。シエレー。サウシー。サツカレー。トーマス、アーノルド。バンヤン。ゲーテ。エマルソン。ジヨンソン。ベン、ジヨンソン。ロングフエロー。モリエル。ラスキン。テニソン。ウオーヅウオルス。シルレル。政治家にて、クロムエル。リンコルン。彼得大帝。華盛頓。李鴻章。ビスマルク。シーザー。シヤーレマン。クライブ。ミラボー。ウエブスター。科學者にて、ハツクスレー。哲學者にては、ショツペンハウエルの如きは身長五呎九吋以上のものにして、最長大者中に位し、又、詩人文學者にては、バイロン。ディツケンス。リツトン。ヴオルテール。スウ井フト。ブラウニング。カウパー。ダンテ。デフチー。ハイネ。ロウエル。ゾラ。政治家にては、グラツッドストン。ピーコンズフィールド。ウエリントン。歴山大王。哲學者にてはスピノザ。ルナン。ミル。ベーコン。科學者にては、ニユートン。宗敎家にては、ルーテル。ウエズレー。聖人にては孔夫子の如きは中等位にありて身幹五呎九吋以下同四吋以上のものなり。また詩人文學者にては、キーツ。ドライデン。ギボン。グレー。ゴールドスミス。ホルムス。ラム。マコーレー。ミルトン。音樂者にては、ベトーフエン。モツアルト。メンデルゾーン。政治家にては、ヘスチング。ナポレチン。デ子ルソン。哲學者にては、ベンザム。アリストートル。カルヴ井ン。コムト。デカルト。科學者にては、ケプレルの如きは最短小者にして五呎四吋以下なり。

また王侯將相何ぞ種あらんや、天才は階級によらずと稱すれども、假に社會の階級を分ちて、上及上の下、下の上、及下の四級に區別すれば、其中いづれよりして古今有名なる天才人の最も多く輩出せしやを尋ぬるに即ち上及上の下の階級に在り、下の上等之に次ぎ、下等最も尠し。米國學士會院報告によるに、歐洲歴史中最著名の七十人の天才を撰びて、其家門の上下を區別せるに、上等及上の下等

よりは、ダンテ。ペトラルカ。ボッカチチ。チョーサー。アリオスト。モンテーン。エドモンド、スペンサー。タッソ。セルヴアンテス。沙翁。ベン、ジョンソン。ミルトン。コルチイユ。ドライデン。アデイソン。ヴオルテーア。ジョンソン。レッシング。ギボン。カウパー。ゲーテ。コルリッヂ。スコット。バイロン。シエレー。マコウレー。コムト。ユゴー。サッカレー。デ井スレリー。テニソン。ブラウニング。ラスキン。ニープール。シエレー。ランドル。ヒューム。フイールデイング。モンテスキユー。ロック。ライブニッツ。パスカル。ホッブス。デカート。ベーコン。の四十五人あり。下等の上級よりは、ルーテル。ラベレー。カメチン。エラスマス。スカリヂエル。モリエル。スピノザ。ラシーヌ。デフチー。スウ井フト。スチール。ポープ。アダム、スミス。ルーソウ。カント。シルレル。ウチーヅウオルス。ヘーゲル。キーツ。ベランヂエール。ハイネ。バルザック。カーライル。デイッケンスの廿四人あり。下等階級よりは、バンヤン、バルンスの兩人あるのみ。即ち知る教育ある家庭は天才を出すと多きを。而してバンヤン、バルンスの二人の如きも亦父母の家庭教育亦大に預て益をなしたりとはいふなるをや。

◎教育家の獨立

●●●日本人記者近頃現今教育家の卑屈なるを痛罵して、教育家の獨立せざるべからざるをいふ。言頗る時弊に中す。彼一時當路に反抗したるものとして、當局者の脅迫にあふて忽然屏息したるもの、又は官祿を増加せられて、默々得色なるもの等の卑劣なるはいふまでもなし、文部の箝口訓令云々と非議する教育論者多けれども、教育家は政治に參すべからずといふよりは、金祿爵位といふ一大箝口力あるを知らずや。日本人記者が教育家は之を他の諸官吏に比す、或はやゝ俸祿の輕きが如きの傾あるべしと雖も、之を今日の民度に觀る、寧ろ高きに過ぐるも低しとはすべからず。若し教育者にして身を持する儉素に、俸祿を折半し若しくは三一して生計の資となし、餘りあれば即ち之を教育の事に投ず、乃ち一朝職を棄てゝ去らざるべからざるの事ある、能く貧賤に甘んじて、正節を全くするを得べく、禍は却て立脚の地盤たるとなしとせず、之を教育家の面目を保つ所以とすと。いへる、方今果してよく如斯き決心を有せるの教育家ありや。

◎亂調子

箝口訓令の紛紜、高等教育會議、文部省新企業案の消滅其他今の教育界は凡て亂調子なり。冀くはこの風波以外の卓立して、泰然自ら持して、子弟の教育に精勵するの教育家、此時を以て更に多からんとを。

◎外國語の流行

外國語に英語は、内地雜居の近きにあるが爲めか此頃とみに勢をまして、私立の英語學校も、新來の生徒を以て滿たさるゝといふ。既にまた官設の外國語學校の開設せらるゝあり、且つ同校は特に職業あるものゝ爲めに夕刻の授業を設けたるあり。此時運に際して、かの外國宣教師の設立せる諸學校が其有せる多くの便利を利用して、一種の外國語學校とならんとを望むものなり。さらば今日の如き不振にして且つ効能なき境界を脱して、必ずや教育界の一勢力となるの日あらん。

◎沖繩島の教育

教育時論に見えたる沖繩縣よりの報道によれば、同地の教育はなほ幼稚なるが中にも、日清戰爭の影響として就學生徒も著しく増加し、二十八年には就學生徒は不就學生に對する二四、一六なり、二十九年には二八强となり、本年は更に一層の増加なるよし。女子の就學は至て少く、土地開けぬ處にては、文字の必要なく女子の如きは殆ど文字を知るものなければ、之を勸誘するも容易に應ぜず。されど本島即ち沖繩島の一漁村糸満にては、男子は漁撈に從事し、女子は賣り出し、又は帳簿整理、利益配當等の事を司り、而して女子の就學頗る多し。是は學校にて算術を習へば、計算に熟するの實益を感じたるによれり。首里區の小學校にては女子部に機織を設けたるより就學者大に増加したり。即ち同校の女生徒は本年は二百五十名ありといふ。中學生は三百六十餘名。師範學校は定員百名なり。二十九年度の調査によれば、小學校數全縣下に百九校にして、内尋常小學七十六、同分校二十六、高等小學七なり。小學教員は三百五十四人、内正教員百五十二人、准教員九十四人内三人は女子、雇教員百八名内十五人は女子なり。學級數は三百四なりとぞ。

○親としての美

同じく是れ同一の人。之を觀ずるの方向と淺深とによりて其の現象を異にし、相差ふこと霄壤のごとし。もし猿猴と祖を同うする由縁に着眼して、むかし其の匍匐せし痕跡を調査すれば、人の趣きも動物に近し。もし其の劍戟を交へて怨悪の烈情を燃やすの方に觀察すれば、人も亦た恐しき獸に似たり。彼等が巧みにつくろひて而も落々として剝げ、痴態の虚飾に一時の安きを買ひて忽ち衰へゆく憫状を見れば、朝花の暫らくにして枯るると相似たり。戀情の奴、嫉忌の鬼、貪婪の魔、皆な人をして種々の怪相を呈せしむ。古來幾何の學者、箇々の着眼を備へて各様に視察し、皆な其の研究を發言して毫も欺くにはあらず。たゞ其の見る所の一大事を欠ぐを遺憾となす耳。看よ、寶石を鑑するに或る角度の着眼を要す、人間を見るものは、當に其の親たるの至情に就て觀測すべき也。

蓋し、人一と度び親心を發すれば、百の慈愛自からに生ず、多僞の世界たゞ赤誠あるは即ち此の一角のみ。左れば、人類の眞相を測りて其の絶美を認めんとするものは、須らく此の途より上るべし。斷じて異方の籬より入る可らず。飜つて思ふに、人の天地を見る亦た如此きか。天地生氣あり、決して死物にあらず。學者即ち、理と言ひ、義と言ひ、法と云ひ、妙と云ひ、もしくは、大道とし上帝とす。左れど、若し親として此の神明を思慕するの消息に入らずんば、未だ能く其の極美を認むること能はじ。人或ひは如何にして之を親と見做すことを得べきと問はん。余は反つて其人の如何にして其の親を親として仕ふるに至りしやの實際を問はん。法律の親あり、血肉の親あり、義理の親あり、名義の親あり。左れど、眞に親として孝を以て仕ふるに至りし所以のものは、たゞ子たるものの誠意にありて存せずや。天地の親を認むる亦た之に類す。經に曰く、心の清き者は福なり、其人は天父を見ると。古來、天に父あることを實際に教へたるは即ち救主耶蘇の外にあらじ。

○聖賢の教何處にある

古來の聖賢の尊崇せらるゝは何故ぞと思慮せよ。一時の花は艶なりとも遂には萎るべし、暫らくの眼前に佳とせらるるのみならば、古來千百年の長きに其名の殘らん筈はある可らず。一ッには、人々胸底の秘密なる理想に適ひて快きが爲めにも由るべけれど、もし實際に施して其効なからんほどのものなりとせば、人は夙に輕んじて敬遠すべかりしものを。大凡そ世故に經歷して人事の風波にもまれたるものほど、遂には聖賢の御敎への極めて適切なることを覺るに至るこそ不思議なれ。諸君試に仔細に念ぜよ、苟くも十年一貫の事業に手を着けて、眞摯敦厚に人生を味はひたらんものは、聖賢の言語の實は常識にして深く實際世間の爲に告白せられたることを悟るを得べし。顧みて二十年三十年の經過を惟みれば、大綱ひとり徹し、因果嚴かに備はり、僥倖は朽ちたる繩の如く解け、虛名はうつせみの殼の如く散りゆきて、初めて知る一切の萬事すべて空ならず、應報賞罰の極めて明白なることを確認するを得べし。玆に至つて彼の聖賢を拜すれば、其の言や通、其の論や粹、其の敎や極めて實際、其の諭す所や皆な常識に訴ふることを知り、愚夫愚婦も又立つて行ふべく、哲子も尙ほ坐して考究すべき博大圓滿の旨趣たることを見ん。此に至りて吾はじめて聖賢の長久に重んぜらるゝ所以を解す。

○宗教的同情なきの寂寥

宗派宗論の何たるを問はず、凡そ宗敎と云ふものを度外にして其の趣味を解せざる人ほど、相話して物足らぬ心地のせらるゝは稀なり。物の哀れを感ぜざれば、人知らぬ涙を分たんよしもなし。慈悲の眞諦に消息を通ぜざれば忍ぶ心の調子も自づからに相違ふ。うるはしき天地を賞めて人の一生を觀ずるときも何處までか同伴し得べき最も覺束なし。淵默無爲の樂しみを交はすことの薄ければ、只だ騷々しき交はりにて了らんか。寅畏崇敬のめあてを異にすれば、恐懼にも平和にも同情をもとめん方なし。就中、余裕綽々として同にともに何處にか逍遙遊せんや。語れども通じがたく、抱けども隙ありて、同胞の誼を如何にしてかむすばん。獨りおもふて泫然たり、只管ら遣る瀬なきの怨を寄せんとするに、抑や之を誰にか寄

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

せん。蓋し、宗教的感想を相交はすべき友の無き時ほど、人のさびしきはあらじ。

○赤兒の履歴

社友湯谷紫菀其の長男を失ふ、送葬の式に余は亡兒が履歴の文を讀みたるに云く、

湯谷太郎君、明治三十年六月十三日夕八時東京下谷湯谷氏寓居に於て生る。湯谷氏曩に二女を得既に其長女を失ふ。玆に初て男兒を擧て鍾愛措かず。越て一月半、擧家相携へて相州葉山に避暑す。海風徐に來り、樹陰清涼たり。太郎君發育頗る健全、温容玉の如し。觀るもの皆愛寵す。湯谷氏葉山に在ると全一月、秋氣初て催すの節、擧家同もに京に歸る。而して後ち二週日、九月十日に至りて太郎君微恙あり。十三日、腸加答兒を發す。高田耕安氏の主治を受く。十六日に至りて血液を痢し、病症太だ憂ふべし。直に高田氏の東洋内科醫院に入らしむ。症徴漸くにして赤痢の嫌疑あり。高田氏之を東京市駒込病院に致し、院長入澤達吉氏、其知己たるの故を以て特に眷顧を托す。十九日格魯布性肺炎に變ず。二十日午后三時大に痙攣を發し、殆んど死す。恰も好し、高田氏來會し、巧みに施術して急を救ひ僅かに免るゝことを得たり。湯谷氏父母此時既に再生の恩を感じ、爾后たとひ再び逝くも亦憾みなしと言へり。高田氏又看護婦長後藤女史を送りて特に看せしむ。日夕愛護至らざるなし。廿一日雨初て晴れ、天氣快晴。太郎君少しく佳し。湯谷氏父母相語りて曰く、太郎既に高田氏によりて再生の恩あり、たとひ死すべしとするも、寧ろ高田氏直轄の病院に於てせしめんと。此時、赤痢の症徴倘未だ明らかならず、單だ肺炎の昂進を見る。然りと雖ども湯谷氏の至情亦禁す可らず、傍人亦之を贊す。則ち廿一日午后五時看護婦後藤女史之を抱き、急車徐に走り、駿台鈴木町東洋内科醫院に轉ず。衆皆な途中異變なからんことを祈る。天幸謝すべき哉、遂に患なし。既に高田氏の病院に轉じ、衆皆な安んず、湯谷氏初て喜色あり。同もに語りて曰く、太郎既に其地を得たり、生死の二途はたゞ天父の誘引に任す、すでに人事を盡し、亦た遺憾あるなしと。太郎君之より安眠して亦異狀なく、外觀太はだ佳なるが如かりしが、人事

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

正に了り、天命茲に盡き、廿三日午前一時五十五分、其の眠れるが如き温容の儘にして永眠の床に入れり。少くして東天曉を報じ、日光窓より入る。父母傍にあり、高田君及後藤看護婦亦傍にあり。太郎君たるもの、限りなきの愛護と憾なきの醫治とを受け、未だ俗塵の汚濁を被らず、純潔無垢の一生を送りて、麗はしき一代の天壽を了へたり。則ち亡姉初音の遊樂に伴はんとして茲に安らかに天國に逝けり。嗚呼、大人の壽必らずしも長きにあらず、赤兒の命豈に短しとせんや。太郎君、現世に齡を享くると一百二日、肉骸を染井墓地に埋葬して永く同人の紀念とす。

此時湯谷氏の野邊送りを慰さめたる歌に

君よおもへ吾に後れしみなしごは
たれをか野べの送り手にせん。

我のみや影もかはらむあすか川
おなし淵瀬に月はすむとも

後嵯峨天皇

雜録

海舟翁茶話

◉人には餘裕といふものが無くては、迚も大事は出來る者では無いよ。昔から兎も角も一方の驍將とか一番槍の功名者とか云ふ者は、縱令如何な風に見えても、其裏の方から覗て見ると、チヤンと分相應に餘裕を備へて居つた者だよ。今の人達に此餘裕を持つて居る者が何處にあるか。人には隨分澤山ある樣に見える世の中だけれども、己い等の眼には頓と見え無いよ。皆無だよ。其處へ行くと大西鄕が思はれるのさ、彼れは常に謂つて居つたよ。人間一人前の仕事と云ふものは高の知れたものだと。

◉どうだい餘裕と云ふものは此處だよ。イクラ蚤取眼で天下の大機を見たとて、觀えるものでは無いよ。イクラ物事に齷齪して働いても、仕事の成就するものでは無いよ。功名を爲よふと云ふものには、迚ても功名の出來るものでは無いのだ

よ乾度提戰を爲やうと謂て戰た日には、中々其通りに提戰を爲るものでは無いのだよ。是等はツマリ無理があるからいけないのだよ。詮じ詰めれば餘裕が無いからの事だよ。

●お前方には見えないか、大きな躰をして小い事に心配して、あげくの果てに煩悶して居る者が、世の中に隨分多いぢやないか。駄目だよ、彼れ等には迚も天下の大事は出來無いよ。ツマリ物事を餘りに大きく見るからイケナイのだよ。物事を自分の思慮の裡に疊みかける事が出來ないものだから、アノ通り心配した果てが煩悶となつて、壽命も何も縮めて仕舞ふのだ。全躰物事は分別爲なければならない者が、却て物事の方に呑まれて仕舞ふから、仕樣がないのだよ。これと云ふのも矢張り餘裕が無いからの事さ。

●何事を爲るにも無我の境に入らなければいけないよ。悟道徹底の極は、唯だ無我の二字しか無いのだよ。イクラ禪で錬り上ても、中々さうは行かないよ。イザとなると大抵の者が紊れて、仕舞ふものだよ。『きり結ぶ太刀の下こそ地獄なれ踏込み行けば後は極樂』と是れ昔劍士の言ふことだよ、其調は酷だ素朴だがノ、ツマリ無我の妙諦は這裡に潛で居るのだ、ヨシカ。

●ツマリ餘裕＝思慮＝膽力など、謂つてもノ、其人の天分だよ。天分と云ものは、實に爭はれないものだよ。併し磨けば光るのだよ。ドンナ者でも平生の修養次第にあることも、亦中々爭はれないものだよ。己い等もノ、拾七拾八拾九血氣盛りの此三年の間、劍術の修業を爲た時に、いろ〳〵禪で練て見たがノ、己い等の修養は大層役に立つたよ。

●己い等は是れでもノ、昔は米を搗た事があるよ「さし搗」と云ふのが一番米が減らないよ。己い等は貧乏であつたからノ、自分で玄米を買つて來てサ、自分で此さし搗を遣つたのサ、大層徳だからノ。さうして己い等は妻と二人暮しであつたからノ、妻が病氣にでもなつて臥せり居らふものなら、己い等が自分で肴や香の物を味噌漉下げて買に行たものだよ。今の生ま若い者等が、どうにかなど、謂つて己い等に賴みに來るからノ、其時に己い等の昔若い時分の事を話して聞かせるとノ、それぢや飯が喰へませんと云ふよ、マー呆れるよ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

偽善者

（上）

曲浦抄譯

瑞西の大教育家ベスタロチーの著に「レナルド、エンド、ゲルツルード」と題する小説あり。こはもと此偉人が普通教育の以て天下を救濟すべきものたるの理想を寓したるものにして、其主人公ゲルツルードといへる一婦人は、即ち其日夜理想したる人物の模型なり。左に抄譯するものは、即ち此小説の世界たるボンナルの領主アルチア新に會堂を建築せんとして、ゲルツルードの夫を棟梁として、村内の貧民を集めて其人夫となすに當りて、悪人なる莊官の其命を傳へて處々に走る際、現れ出たる偽善者を描くの段なり。後に至りて此等の悪人偽善者みなゲルツルドの錬化の及ぶ處に於て良民となるを寫せり。

莊官は頗る不愉快になつて、ボト／＼先にゆいて、さて今度來た處は、フエリックス、クリーヘアの家でした。クリーヘアといふものは。見かけは、至極熱心な信神家らしくて、頗る謙遜な風を繕ひ、説教其他の集會のある時は、一度でも教會に見えぬことはなかつた。また村での評判の信神家には、御機嫌を取り入つて、諂諛をつかつてゐましたが、されど、自分に一文でも德のつかぬ事なら。門前三里もよけて通るといふ男でした、だから自分の益にもならないに、人の世話をするなどいふは、勿論大の嫌ひでした。

此クリーヘアには堅く家内の間に秘め匿して、敢て人に知らるゝを欲せぬ、大々的の隠德がある。それは即ち、女房や子供に極めて不仕合せな目を見せるといふことでした。カラ文なしの貧乏で、日々アクセクして居るのは、一向お構ひなし、例でも甘いものゝ喰ひたい性質で、口が淋しいと、すぐそこら八ッ當りに怒鳴り散らし、もし格別これといつて、腹を立てる種がない時、ひよつと四ッ許の小兒が、横目で親爺の顔でも見ることでもあるものなら、それこそ、えたりかしこし、「エイ無作法な」といひさま、其兒の頭に鉄拳の雨が、續さまに降るのでした。或日の事、例の通り、クリーヘアは、美味物の食へない敵を、可哀想に我兒の頭で討つたので、流石内氣な性質の女房も、怺へかねて「馬鹿な人だよ」と叫びましたから。さあ怒るまいとか、もう／＼怒りたくて、當つて見たくてたまらない折りに、當然の悪口をついたといふ罪科で、女房を蹴るやら、打つやら、女房は躓き倒れた拍子に、頭に疵が而も二ッまで出來ました。流石は偽善者のクリーヘアですから、之を見て、驚ろき周章てゝ、この疵の爲めに外聞を損じてはと氣を揉んで、女房の前に跪いて、頭を幾度となく下げて、己が悪るかつた、どうか宥して呉れ、今日の事を、ど

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

うぞ他處の人にいつて呉れるなと偏に頼みました。女房は心よう承知しまして、人には、つい一人でころんで怪俄をした躰にいつて夫なればこそ此の僞善者の面目を立てゝゐました。それであるに、クリーヘアは女房の頭の疵が愈るか愈えないかに、早や何もかも打ち忘れて、以前に變らず、此男性來の大々的陰徳を着々として施してゐました。

莊官が此家を尋ねて來た十五分程前でした。飼猫がふざけてはねまはつた拍子に、棚の上に置いてあつたランプを、ひつくりかへして、油が少しこぼれたので、クリーヘアは忽ち火のついた樣になつて、

『馬鹿、阿呆、こん畜生の躾をよくしろ。手前は暗隅にすつこんで、牛糞でも燃してゐろ。阿呆めが、獣めが。』

といつて、女房に怒鳴り付けました。女房は口返事をするでもなければ、默つて、シク〱と泣いて、兩方の頬には涙の雫がポツ〱と流れて居ました。小供等迄も隅ッこの方に小さくなつて泣きをめいてゐました。丁度當時に、莊官が案内をしたので、クリーヘアは、此仕末を見られては思ふて、急にたまらなくなり、手摺り足摺り、氣を揉んで『ヤイこれや、後生だ、靜にしろ、泣くなー。』と呑込聲に子供等を叱り付けて、まだ泣くと、打ち殺すぞと嚇しながら、手拭をとつて子供らの顔を拭ひました。家内がどうかこうか靜まつたので、漸う戸を開けて、恭しう莊官に挨拶をしました。莊官ハンメルはさも横平な風で、二口三口に用事の趣を述べるのを、謹んで承つてゐたクリーヘアの耳は、片ッ方では家内の動靜を伺てゐましたが、最早十分に靜つて他人が這入ても不都合はないと考へたので、何返か、腰を屈めて、

『莊官樣、どうか御這入り被下れ、私は家内にこの喜ばしい仕合せを一寸聞してやりたうございます。家内もどのやうにか喜びましやう。』

莊官はクリーヘアの案内するまゝに、奥に通りました。この僞善者は、女房に對ひ、猫撫聲をして、莊官の齎した悦ばしい知らせを聞かせたれば、女房はホッと溜息をついて、

『ア……辱じけなう……』

とさも情なさうな聲をしたので、莊官は怪しみながら、

『家内はどうかしたのかい。』

『ハイ、まとに困ッた譯でして、あれは此中から少々加減を

損じまして。』

といつて、横目で、哀れな女房を睨め付けました。

＊　＊　＊　＊　＊

莊官は此家を出まして、それより日頃氣に入りの悪徒ミヘールといふものを訪れました。ミヘールは莊官をむかへて、叮嚀に挨拶をなし。

『どうまあ魔がさして、今頃爰に來なした。』

『ちと悦ばしい話があつてさ。』

『あなたの事ですから、例もながら芽出度い知せに相違ありますまい。婚禮や祝儀や何でも目出度い事の知せをしてまはるには、是非共あなたを頼まにやならんと、皆が申してゐますよ。』

『さうさ、余はいつだつて不吉な事の使に立た例がない。』

『さて御用は一躰なにです。』

『貴公が今度新しい仲間に這入る事になつたのよ。』

『へェ、そりやどんな奴の仲間へ。』

『ルデー、ロイク、クリーヘア、マアクスなどいふお歴々のさ。』

『なんだ。人を馬鹿にしてゐらあ。あんな奴等と一處に、全躰何をするのです。』

『即ちボンナル村に神の家（會堂）を建築せんが爲めに。』

『そりや眞面目に嚴肅に熱心にやるのですか。』

『さうとも神の家といふぢやもの、我は生ける罪人だと思ふて出精しなければなるまい。』

『しかし誰が、このやうな大切な仕事をするに、役にも立たない、手痿え、足痿えたるものを撰んだのですか。』

『そりや云はでも知れた事さ。高貴な御生れで、聰明穎悟にましますし、尊き我君アルチア様の御差圖さ。』

と苦々しう返事しました。

『一躰殿様は、ちと足らんのでしやう。』

『どうしてそんな事があるものか。』

『それでも、さうのやうですぜ。』

『さうなりや、馬鹿といふ奴も、まんざら世の中のすたり者でもないやうだ。やあ、余はまうかへらう。貴様、今晩わしが處へ來て呉んか、少々内々折入つて相談したい事があるから。』

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

粟津の原

花影子

ゆふ日の光たえだえに　鳰の海原風きよく、
よせてはかへす白波の　音すゞしくもなりにけり。
道をはさみて枝たかく、　並木の松の年ふりて、
蔦まつはりし木のまより　むかひを遠く見渡せば、
夕げの烟たなびきし　石山寺の鐘の聲、
なかばは夢ときえさりし　昔を今にさましけり。
道ゆく人のあとたえて　塒にかへる鳥もなく、
昔の跡をたどりをる　我より外のかげもなし。
田中の路の草の葉に　結べる露をふみわけて、
おほへる苔に埋れし　石ぶみたてるおくつきの
まへにいつしかきたりけり。　影いとくらき山の端に、
傾きかけし三日月の　かすかにうつる早苗田に
すだく蛙のなく聲も。　昔のあとをとふならむ。
一もと松のこずゑには　かなしき風の音すなり。
苔にとまりし螢火に　うもれし人の名も見えて、

うきふししげき世の中の　さましのばれてうらかなし。
ひとつやからの敵うちて、　いさをしたかき人をしも、
國の賊てふ名を負はせ、　うたてや遂にたふしけり。
君につくすの眞心は　いかなる臣もおなじきに、
巧みし人を世はほめて　破れし人はすてられぬ。
駒のひづめに蹴たてられ、　濤まく塵をくゞりつゝ、
血けぶりたてし大刀風に　赤き心はほとばしり、
君のゆくへを見送りて　ながめし空はかはらねど、
世の浮雲のさだめなく、　いつしか星もかくれけり。
まとなき世はうたかたに　うつれる色はめづれども、
まとの光のこしゆく　夕日はまたくわするなり。
浮世の外の野みちより　情の奥にわけ入りて、
昔しのぶの草のいほ、　結びし人ぞなつかしき。
われ今ひとり古へを　おもひかへして忍ぶまに、
いつしかいたく夜はふけて　袂の露ぞいとおもき。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

我やすみ

同じく

眠らうせんとや　夕がすみ
山より山に　たなびきて、
里もはやしも　おほひつゝ
母のごとくに　世をいだく。
水は子守の　歌うたひ、
をどりし風も　やすみつゝ、
草木の花も　ねぶりけり、
かをりも夢の　こゝちして。
人と罪との　あとたえて
かすめる月も　まどかなり。
楽しわが身も　天地の
胸にすがりて　眠らなむ。

案山子酒舍社點取會詠

（池袋清風大人評點）

大阪第一社

、蚊遣火　　今村幸子

夕月は山のかひより出ながら烟にこもる日ぐらしの里（あらはれながらかやり火の）

評　蚊遣の事なし。否夏の景もなし。又此景は里を他所より遠望する景ならざるべからず。

、同　　永井鶴子

柴垣の宿のあるじや誰ならんかやりの奥のつま琴の聲（すだれ／に／音ぞする）

評　蚊遣たく頃は黄昏也。假令夜に入てたくさするも、月夜ならでは他所よりよく見えざる也。されば此所は夕ぐれによそより眺めたる景也。然るに實際夕暮には、日業も遊興もまばし休むもの也。まして蚊の出る時なりや。故に添刪に從ひ聽琴さでも題を改むべし。

瞿麥　　池袋節子

あはれにもさき出にけりなでしこの庭の教はわれなさねども（ろ哉／まら）

評　なでしこの題よりも、むしろ兒をまうけたる時などの詠のやう也。

、、同　　今村幸子

夕立の露のなさけをかけてよりとこなつかしき花の色かな（きぬく／やぶかゝらん）

評　夕立にてはさこの縁なし。故にかく添刪しぬ。

、、日清の役戰歿者追吊會の時　　堤[illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

、、日清の役戰歿者追吊會の時　　堤鈺太郎

吹風（から山）にはかなく散りし櫻花（やまとの）世にあだなりと誰かいふべき

評　上にはかなくといひては下句と矛盾す。そははかなくといへる詞には、無益の意も含めば也。加之詠出の儘にては日清の役なる事も分らず、戰死者たること も知れず、唯櫻の詠としても、上下の關係わからぬやう也。今添删にて、始て眼瞳出來たり。否一變して秀逸となれり下中句も生命顯はれたり。

、同　　永井鶴子

うち死にしせ（國の爲）このいさをを嬉しげに語るもあはれ武士のつま

評　一種可憐の情涙を催すが如し。

、同役病歿者　　同人

目に見えぬ（たゝかひの外のやまひにきえ）仇のとりことなりし身の心やいかに悔しかるらん（りけ）

評　上句病の事とは思はれぬやう也。

、同役に勳功を立て郷歸する兵士の妻に代りて　　堤鈺太郎

人志れずおとす涙は嬉しさのあまりてもれし志づく也けり

評　能く當時の情を述べたり。

、夕立　　堤鈺太郎

堪がたく苦しき（き）けふのあつさをも洗ひ（時の間に）ながしゝ夕立の雨

評　堪がたきあつさにて充分也。苦しきまで加へてはくだくし。

、朝顔　　大畠榮子

かぞへおきし蕾の外に葉がくれてさけるも多し朝顔の花

評　別に難もなし、殊に靜閑にして蕣花を愛するの景情も含みたれば閑庭朝顔なるべし

、霧間朝顔　　同人

志のゝめの霧のまがきの絕間よりほの見えそめつ朝顔の花

評　淸晨秋冷神氣爽快の時斯幽美を觀る、雅情果して如何。

●小兒の歌謠

◎小兒を抱き身體を前後に運動しつゝ唱ふるもの

せんぞやまんぞ。お舟はぎつちりこ。ぎちくこげば、大黑かお夷か。こちやあ福の神よ。

◎月を見て唱ふるもの

大事なお月さま、雲めがかくす。とても隱すなら、金の屛風でおかくし申せ。うさぎく何を見てはねろ。十五夜お月さま見てはねろ。ホイく。お月さまいくつ十三七ッ。まだ年わかいな。あの子を生で此子を生んで、だれにだかしよ。おまんにだかしよ、おまんどこ行た。油買に茶買ひに。油やの角で、氷がはつて、すべつて、ころんで、油一升こぼした。その油どうした。次郎どの犬と、太郎どの犬と、皆なめてしまつた。其犬どうした。太鼓にはつて、あつちのすみでは、どんくく。こつちのすみでは、どんくく。

◎小兒の兩手をとり、交互に上下しつゝ唱ふるもの

かアごめかごめ。かごの中の鳥は、いつくでやろ。よあけのばんに、つるくつッぺッた。どッちの山が高いな。こッちの山が高いな。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎雁を見て唱ふるもの

雁々みつくち、あさのがんが、さきにたつたら、こうがいどうしよ

◎鳶を見て唱ふるもの

とんび、とろゝ、あぶらげやるから、お茶屋のまはりを、まはつて見せろ

◎鴉を見て唱ふるもの

からす〳〵寒左衛門、手前の内はやけるぞ。はやくいッて水かけろ。水がなきや、湯かけろ、湯がなきや、茶かけろ。

◎夕方鴉の塒にかへるを見て唱ふるもの　（伊豫松山）

からす〳〵どこへいく、道後のぶんぶいいく。なにもつていくぞ。やき米ま米もつていく。おれにもちッとくれんか。やーればなくなる。なくなりやつくれ。

◎多數の小兒手をつなぎ圓狀を作り開閉しつゝ唱ふるもの

開いた〳〵、蓮花の花が開いた。開いたと思つたら、ヤツトコサとつッぼんだ。

◎蝶を見て唱ふるもの

てふ〳〵とまれや菜の葉にとまれ、菜の葉がいやなら櫻にとまれ。

◎虫の名づくし

てふ〳〵とんぼにきり〴〵す、山でなくのは、鈴虫まつ虫、くつわ虫。

◎桃柿などの苗を案むる時唱ふるもの

桃栗三年柿八年、梅はすいとて十八年。

◎つくしを採る時唱ふるもの

つうくしつばな、彼岸の入りに、袴はいて出やれ。

◎狆及犬等の畜を見て唱ふるもの

ちんわん猫にヤアちう、金魚にはなし龜。牛もう〳〵、駒犬に、鈴がらりん。蛙が三ッで、三ひよこ〳〵。鳩ぽつぽに、立石石燈籠。小僧がこけて居る。擢つく〳〵、布袋のどぶつに、つんぼ爽ご　雁が二羽で、鳥居におかめに、はんにやに、ひうんどんちやん。どつこい、わい〳〵天王、五重の塔、お馬が三疋、ぴん〳〵〳〵。

◎信州福島の子守歌

烏鳶何處へゆく、お諏訪様のお迎ひに、何々もつてゆく、麹三合米三合、橘の詰

へ蹴いて、爪立つて拾つて、せん湯で洗ひ、ゆすぎ湯でゆすぎ、國體裏の餝へ持つてつて、甘酒造つて置いたらば、下の町の黑犬と、上の町の赤犬と、うまいと云つちや、ひん舐め、まづいと云つちや、ひん舐めて、みんな舐めて仕舞つた。其跡はどうやつた、犬鼓に張つた。大鼓は何うやつた。夕べの踊に、たゝきやぶつて仕舞つた〳〵。

◎同地方の手鞠歌

一つでは乳をのみそめ、二ッでは乳首はなして、三つでは歌の隙間を離れて、四つでは、よりこよりそめ、五つでは糸をとりそめ、六ッでは麻機織りそめ、七ッで錦織りそめ、八ッでは錦襴おりそめ、九ッでは嫁入しそめて、十で殿さとれそとめて、十一で玉の　なるポコ設けて、世話にするする、すふさんささんと、殿さまお年が若いとて御油斷なさんな、淸水の〳〵千本柳に、一羽の雀が鷹にとられて、乳やぼん〳〵、チヨット百ついて、落した、オヤ落した。

◎伊豫地方の手鞠歌の中

ばんばらや、ばんばらやしきの御姫様、明日はとうから御嫁入、なにが悲して泣かしやんす。わしの弟の千松が七ッ八ッから金山へ、金堀りに、金がないやら死んだやら、一年まてども狀がこず、二年まてどもまだ見えぬ。三年ぶりに狀が來て、狀の上書何と讀む。隣の伯母さんに見て貰はう。隣の伯母さん目が見えぬ。向への伯父さんに見て貰はう。向への伯父さんお留守ぢや。紅屋のお千代に見て貰はう、紅ぢやあるまい、血ぢやある。ひーふーにみーよーにいーむーに、なゝやつこのとーこのと。

手鞠と手鞠と行き合ふて、一人の手鞠のいふとにや、お身や奉公せんかや、何奉公せうぞや。一年奉公しやれや、一年奉公たどうぞや。朝起き〳〵、茶釜の水でも汲みかへて、孃さん坊さん起きさんせ。起きて、まゝくて、髮結ふて、でん〳〵寺へ參らんか。でん〳〵寺のきじ猫が、朝起き〳〵ほろろ打つ。ほろろぢやあるまい、傘でやある。傘は何がさ、越後傘。越後のまはりに胡麻蒔いて、胡麻は佛のお嫌ひもの、油は佛のお好きもの、一目、二目、三目さくら、櫻の枝に鳶もとまる烏もとまる、鳥の首は、ねぢやげた首で、殿様お馬、土の子は槍持よう槍持つたまた槍持たを槍の尖はすつぺらぼう。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時文

◎支那文學大綱　卷の一　大日本圖書株式會社版

藤田劍峯、笹川臨風、白河鯉洋、田岡嶺雲、大町桂月の五氏支那文學大綱を編するの企ありて、以て支那に於ける文學の歴史を輪裁的に述作せんとす。其第一卷は、嶺雲の莊子、臨風の孟子、鯉洋の韓非子を載す。論述いづれもやゝ飽き足らぬふしあれども、先づは梗概を知るによろしとやいはん。

◎三國探險實記　岩本千綱著　博文館版

岩本千綱、山本鋠介兩氏が挺身、僧裝をなして、暹羅、老撾、安南の三國內地の冒險旅行をなし、幾多の危難、種々の奇變に遭遇して、彼の國土風俗を探知し特に傑僧高岡親王の墳墓の發見を企てたる事などは、既に江湖に傳贊せられて冒險旅行家鐵脚氏の名世に高し。此書は即ち鐵脚坊が自ら筆を取りて、其冒險譚を記述したるもの、壯快頗る讀むべし。

◎卯花月夜　小中村義家・落合直文合著　同

前年歷史讀本の名を持て老少、共に愛讀したる十二冊の書は、此程四册の書に合卷せられて改版せらるゝ『卯花月夜』即ち其一なり。其談柄趣味多く、文章また流麗以て少年作文の友となすに足る。

◎九郎判官　大和田建樹著　同

日本歷史譚の第六卷『九郎判官』名の如くに九郎義經の一生をすらくと手短に書き流したる少年の讀書としては有益のものなるべし。

◎姨捨山　小波編　同

日本お伽噺の第十九篇は姨捨山並に養老瀧の二話を主とし、附錄には曾て少年世界にて愛讀したる太郎丸次郎丸、朝顏の二のお伽噺を收めたり。小波のお伽噺は他の企て及ぶべからざる特長、面白くをかしき事、今更いふまでもなし。

◎芭蕉全集　同

博文館又、俳諧文庫出版の企あり、其第一編として芭蕉全集出づ、七部集に收められたる名書より、芭蕉句集、文集、其他のものを集め、また不知菴主人の芭蕉庵桃青傳を合せ載せたり。然れども翁の消息を入れざりしは何故なるぞ。また魯魚の謬りも尠からず如斯きは凡先哲の遺篇を刻するに於て遺憾多き事なり。

◎新著月刊　第六卷　東華堂版

佐藤迷羊の『おち葉』可成りの出來なり。田山花袋『ふる池』は例の筆法面白からず、繁野天來の『白菊』、島村抱月の『めをと波』共に哀れな物語やゝ讀むべし。近來は裸體畫のまたく流行し出したればとて、此卷にも二三種見ゆるが、裸體畫なれば美術の上乘なりといふは心得違ひなり。此種の畫ある本來の事情を知らねばかやうの見にくき事も起るなるべし。

◎新小說　第十卷　春陽堂版

川上眉山の『朧富士』は、成り上りの奧樣が密夫を拵へ、其密夫が慾故に實夫を殺したると知りて奧樣罪を悔い自殺するてふ筋。すれ男の『大江山』淨瑠璃體の文章を倣ひて未熟なり。附錄の春の屋主人が『子規孤城落月』餘程苦心の作と見えたれど、且元の苦悶の條々、果してこれよく市の正の面目を盡くしたるものなるや疑はし。或人曰く逍遙の史劇は不得手なり、無乃世話物ならば可なるものあらんにと、吾人また之に同意す。

◎若菜集　島崎藤村著　春陽堂版

藤村の新體詩に於ける、既に一流をなすの評なり。此二三年の吟詠をあつめて若菜集といふ、頗る誦すべきものあり。挿畫不折氏の筆は、高雅いはん方なし。此人の畫にしてはじめて此詩集に挿むべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

片々

◎皇女タチアニア　露國皇帝皇后兩陛下近時第一の皇女を擧げさせ給ひ、名をタチアニア（Tatiania）と命じ玉へり。名のよりて來る處は、有名なる露國詩人プシユカインの傑作詩篇中の一主人女公にあり。其詩篇は熱烈なる自由思想を以て、貴族の悪徳を攻擊するものなり。兩陛下露國帝都上流社會に混々濁々たる罪惡の流を清うするに意あり、殊に皇后陛下の如きは、之が爲め太に心を用ひて、屢々畫策せらるゝ處あり、嚴に近侍の女官の喫煙するを禁止し玉ひしが如きも其一なり。されど其芳志多く酬はずと雖も、皇女に命名せらるゝに、タチアニアを以てせらるゝものは、プシユカインに同意する處あるを示さるゝものにして、貴族社會の之が爲めに將省する處なくんばあらず。

◎日本女子大學校　設立に反對する、女鑑の文明童子の議論や、ますく出で、ますく鄙陋、其毒言を吐くや、蓋し爲にする處ありてか。心あるもは其筆者を知り、其議論を讀まば、たゞ驚愕するあらんのみ。女鑑の屢々之を掲ぐるは、蓋し其主義其精神に適合するが爲めか。恐くは爲めに女鑑の聲價を傷つくることあらん。知らずや毒言の畢竟世になすことなきを。此等卑陋の議論到底日本女子大學の設立を寸毫だに阻碍することを得じ。竹内楠三なる人、近くは女子大學の絕對的無用なるの辯をば、嚴に女子敎育を奨勵するの責任ありと告白したる日本主義に於て論ぜんとすと聞く。吾人未だ之に接することを得ずと雖も、もしよく所謂日本主義の自信自尊を害ふことなくんば幸ならん。

◎大坂の女　孕むこと十八ケ月にして一男兒を擧げ、三河の女また十七ケ月にして一女兒を生み。また某地には孕むとありて十余有月にして五兒を擧げたりといふ。此等近日の奇談。（浮浦）

◎赤痢病　付今年もまた勢頗る猛烈、初發より八月末までに、二府十八縣の患者總數二万七千に近く、死亡者四千に及ぶ。爾來勢なほ猖獗なり。

◎赤痢豫防心得　八月廿九日大日本私立衞生會にては各府縣の撿疫委員を始め、流行地の各町村に赤痢病豫防心得書十万部を分布せり。其要點大を擧ぐれば左のし。

一飲料水は必らず一回煑沸したるものを用ふべし、一回煑沸したる者は、冷却後にても差支なきは勿論なり。

二食物は熟煑したる者のみを食ふべし。平生食し慣れたる者ならば、大概は何にてもよし、熟煑たにる者にあらざれば、食はずといふこと緊要なり。

三食器を洗ふ水は一旦煑沸したる者を用ふべし、飲料用の水亦然り、朝一釜も湯を沸し置き節して之を用ふるときは大概一日の用に足るを得べし。

四食物の熱煑したるもの食器の洗ふたるもの等は蠅の其上に來り留らぬやう注意すべし。（蠅帳に入れ置く等其他尙法あるべし）熟煑したる者も宵越には食すべからず、こは腐敗の虞あり、而して腐敗したるものは消化器を害し下痢を發することあればなり。

五上陳の注意必要なるが故に由來の明かならざる食物は（例之ば他人の家にて供せられたるもの若しくは贈り越されたるもの等）を食ふべからず。

六患者ある家には見舞に行く可らず、

七小兒等を戒めて水泳を爲さざらしむべきこと必要なり。

◎虎刺拉病　赤痢病近年流行すれども、虎刺拉病の殆ど皆無なるが如きは、此傳染病は元來外國より輸入したるものにて、到來當時は、勢頗る激烈なりしも、漸次に日本化せられて、殆ど腸胃加答兒の如きものとなり了りたれば、今後更に輸入することなくんば、未來永久に猖獗を逞しうすること往年の如きとあるまじとは其道の人の說なり。

◎裸體美人　一方には裸體美人畫往々小說本の挿畫となりて、中には、一見其醜に堪へざるものあれど、却て之が爲めに賣行よろしとは人情を醜弄するが故か。而して美術學校にては黑田氏入りてよりモデルを雇ひ入れて生徒して其體格を摸寫さしむるなり。都新聞の如きは非常に之を非難して、美術學校を責む。美術學校の裸體畫研究、畫術の上に欠ぐべからざるものなるべし。然れども裸體畫は白晝公然之を人に示すべきものに非ざるに屢々之を印刷して小說の挿畫となすなどは以ての外の次第なり。然れども今日の如くに裸體醜を敢はざるものなれば美術にかなふといふやうなる見識には斷々乎として與すること能はず。かゝる見識の徒をして其意を擅にせしむれば、なほ我國の淫奔なる繪畫をも歡迎せんとするものならずや。

◎蘂溯士女命名の慣例　蘂民の子女を擧ぐるや上者は生後三日にして命名し下者は日時に關はらず吉凶禍福の特象に由りて命名するを云ふ。而して上者には三種の命名あり、一者乳名と云ふ此は父の命ずる所なり。二を官名と云ふ師の命ずる所三を字名といふ自ら官章の意類によりて已れに命ず、此中字名は貫びて朋友なども之を呼ぶ、下者は唯父の命じたる乳名のみにて終生之を呼ぶなりと云ふ、乳名には四類ありて一には頁字にとり例へば福、祿、壽、財、美、興、旺、隆、貴、等之は兒童の容貌端正なる者に命ず。二には純字にとる。善、存心、安心、守、干順、金、等、之は兒の性質溫和なるものに命ず。三には强字にとる、賊、㳊、法、强、惡、醜、虎、之は兒童の容貌勇猛性質粗放なる者に命ず。四には賤字にとる、乞食、羅漢、豕哥、豕毋、豕屎、鷄屎等、之は兒童の生來疏

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

弱多病なるものに命ず。

◎流行の髮風　國民新聞流行子報ぜる所によれば、又南髮風は至極輕淡なるか好み洗髮の櫛卷か、油氣なしの束髮か、精々銀杏返しさいふ所なるか秋風立ち初めては髮のほつれ毛を風の柳の糸に任せ置くも如何しければ綠の黑髮これから一入美かるべし。さて髮の具の復古さ等しく髮の風も次第に昔の風に復るの傾向あるは必らずしも人心が復古的保守に傾きたる現象にあらず。古來日本の昔風には三百餘種ありしが明治に至り細君は丸髷、處女は島田さ限れるやうに甚だ單純なりしかば人心の倦厭を生じ何か異つたものさの好みより昔の髮風を彼れ是さ結び試むもの多し。されば今日種々の髮風が目につき何だか世の好尙が復古するやうなれど忽ち之を見て國粹的さ化し了れりさ斷言すべからずたゞ古風の內にて新しきものを求むる好奇心に出づるのみ。

島田は品格能き中高流行すれど文金風は好まず、つぶし島田は一部の社會に行はるゝのみ、近來ゆいはた能く見受くるが野暮の風でも趣あり八百屋お七か白木屋お駒さいふやうな中以上の商家の娘が繞りばなしの帶上でもしたなら似合へど髮屋の娘までが此風あるは頗る不似合なり。めうさ掛島田はいちは普通の島田にして前かつぶしになり毛にて其上を綾なしたるものなるこれも弗々見受けらる。丸髷は矢張結婚早々の細君は大一番盛に行はれ、形は歌舞伎形、壯丹形、雀形勢力を占む。丸髷に似たる勝山（手柄を見せず根を低く結ぶ）は藝妓等の道樂に結ぶ。

銀杏返し桃割、唐人髷孰も大振、髷のふつくりしたる風、此三は十四五歲より十七八迄盛に行はれ二十を越せしものすら桃割を結ぶ。これは近來若造りの結果か。割からこは年增の師匠社會に見受くる處なれど近來衆三を結ふもの追々見受く。意氣がりはおたらい、おさふれ等おばこ相變らず。天神は目切廢れたり、輪なし天神は卑しき髮風なるが藝妓社會の洒落に結ぶ。おしやごなども見受くれど是等は決して學ぶべからず。松葉返しは久振年增の女に見え、三輪も可なりに行はる

十歲以下女の子に樂座下又は蝶々髷中等以下に流行し、上等會社にちご髷廢れたり。

惣して髮はつまりし方なれど今春までのやうに吊し猫のやうにぐいさ引つたるにはあらず幾分が緩になりたり。

髱も詰りし方にて今髱さ髷さの角度を示せば、髱の尖端を起點（垂直線の足）さし島田髷の下端には百度位の鈍角を爲し、丸髷の下端には九十五度位の鈍角をなす。即さ髱は島田より丸髷よりも引詰り、又下にさがらず髱の尖端さ耳朶の附根さは直線を爲せり。

前髮は其人の顏の長短（長顏には短く丸顏には長く）により或は髮の長短にもより、長ければ大きく取り、短ければ少さく取つて次第に大きくし、又雁金のある人は細くさり、なき人は太く取れど總して前髮は細く起り奥へ行くに從ひ銀杏葉形に廣がり髷の上端に比し五分方も低き風流行す。

時報

◎造船所に女子を使用せんさす　長崎三菱造船所にては圖景寫書の助手さして女子を雇入るることゝせんさの內談ありさいふ尤も右女工は一般の日雇稼の如く無制限の仕事をなさしめず又た有夫の婦女のみに限り、未婚の婦女は一切雇入れざる見込みなるが、右は單に賃金の低廉なるを目的さするにあらず、書寫の如き緻密を要する業は、婦女の方却つて麁略なる男子に勝らんさの主意に出でしものなりさぞ。

◎奇篤の夫婦　北海道小樽色內町に住居し日雇を業さする吉田市造（四十）同人妻みつ（三十四）の兩人は平生篤實のものにて、這回同港山田町私立高田學校にて增築の計畫あるを聞込み自分の子を入校せしめ居り且つ公共の計なればさて常々節儉して貯蓄したる金員各自五圓宛持參の上同校主へ寄附したりさいふ。（小樽新聞）

◎義犬身を殺して其主を救ふ　此の程紐育のジョン、ヲルカルなる人他出せんさしたるに其愛犬プラノ平常の如く跡を追ふて來り此日に限り數々逐歸したれども遂に歸らず、據て鐵道線路に指懸りけるに踏切を橫切らずして、却て近路を取る爲め線路傳に步みけるに、愛犬プラノは突然さして死にもの狂ひに哮出し、主人ヲルカルに飛附かんさする故、ヲルカルも驚き直に愛犬を擊伏せたるに、此時疾く彼時遲く線路を走せ來る一時間五十哩の急行列車は轟々然さして飛行し來り、ヲルカルの危きを間髮を容れざれば、ヲルカルは線路を飛退き、列車通行後に愛犬を見たるに愛犬は機關車に跳飛され、主人の無事なる顏を見て喜ばしげに息を引きたるより、主人は愛犬の死骸を家に運び最さ丁重に埋葬し其墓石に左の文字を刻したる由、

是れ鐵道線路通行の際余を助んさ欲して身を殺したるプラノの墓なり、
余は現世に於て再び此くの如き忠實なる愛を見る能はざるなり噫（中外商業新報）

◎家庭雜誌、日本の家庭　家庭雜誌は本月より、日本の家庭は先月より各每月二回發行を改めて、月一回さなしたり。家庭雜誌は大に紙數を增加し、定價をも引き上げたり。また日本の家庭主筆有明文吉氏は此程米國へ渡航す。

◎青山御所奉仕の女官　英照皇太后に奉仕せし万里小治典侍以下各女官は、兩陛下西京より御還幸啓の上は、永の御暇を賜はり、何れも過般京都に赴き、後月輪東北陵の近傍に住居を定め、御奉仕の務いさ殊勝なりさぞ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎私立滋賀縣高等女學校　は從來師範學校二三教諭の無報酬にて、教授を引受け居りたるに、既に孰も他に轉任したるを以て、忽ち維持方に困難せ來したれば此際大に組織を一變して一層の擴張を圖るの議ありと傳ふ。

◎工女の貯蓄　岡山製絲株式會社にては創業の當時より規定を設けて工女の漫りに他の同業者へ傭使せらるゝことを豫防し且將來自立の資產を補助せしむるの主意にて每月賃金の百分の五を貯金として會社に預り會社より銀行へ預入れ其の利子を加ふる事とし本人若くは一家内に病氣又は非常の災害ありたる塲合の外は拂戾を許さず又會社の承諾を得ずして漫りに他の同業者へ傭使せられたる塲合には現金を會社に沒收する事とせるが目下多きは一人にて拾圓以上を貯蓄せるものありと。

◎在日本　米國メソヂスト女子外國傳道會社宣教師の任地、今夏輕井澤に於て該會の女子傳道會社の年會を開きたる節、所屬教師の任地を規定したることは、既にも報ぜし處なるが、此程いよ〳〵確定したるものによれば、函館遺愛女學校々長にミス、デカーソン、同校教授兼婦人傳道長にミス、ハンプトン、同校教授にミス、ゼンカー　福岡女學校々長にミス、シーズ、同校教授にミス、スミス、福岡婦人傳道長にミス、ギーア。長崎活水女學校々長にミス、ラッセル、同校教授にミス、キッドウエル、ミス、リー、ミスエルピング、ミス、ヤング、ミス、メルトン。名古屋清流女學校々長にミス、アーリング、同敎授にミス、ベーダー、名古屋婦人傳道長にミス、ヒートン。仙臺にミス、フエルプス、ミスイムホフ、信州婦人傳道長に、ミス、アレン。東京靑山女學院長にミス、ワッソン、同敎授にミス、ラッセル、ミス、ダニエル、ミス、ウイルソン、同手務部長にミス、ブラックストック。東京築地にミス、スペンサー、ミス、クラーク、スペンサー。橫濱聖經女學校々長にミス、グリフヒス、同敎授にミス、サイモンス、橫濱婦人傳道長に、ミセス、ヴアンペテンの由。

◎海外女界

◎ビッカーダイク紀念節　米國軍隊にて今後每年七月十九日を以て一祝祭日となすとに决したり。此日は即ち南北戰爭に於て兵卒の友となりて、マーザー（母）ビッカーダイクとよばれて慕はれたるメリー、エー、ビッカーダイク夫人誕生日なり。夫人今や其子息と共にカンサス地方に老を養ひつゝ、米國軍人より非常の尊敬を受けつゝありて、爰にまたこの事とへあるに至る。

◎詩人、インゼロウ孃　英國の有名なる女詩人ミス、ゼーレ、インゼロウは、七月十九日倫敦に於て死去したり。

◎婦人の夜番人　米國ニユー、ゼルセー州、ニユーブランスウイク市に一人の女子の夜番あり、名をゼオーヂ、ヒユーバル夫人といふ。常に一愛犬を携へて夜を警戒巡邏するに頗る効績ありといふ。

◎ゼンニー、ムーア夫人　といへるは、此程も米國ニーヨーク州コチー島に於て覆船より一人の男子を救拯したるを以て人命救濟者の賞與を受けたるが、夫人は以前にも既に二人の溺水者を救濟して其都度賞牌を受けたるものなりといふ。

◎女子郵便局長　米國シカゴ市第十郵便支局にては、此程ゼノン、アダムス孃といへるを擧げて局長となしたり。月俸は二百弗のよし。孃自ら此地位を希望せしものにあらざりしが此度推選せられて、公衆頗る之を喜ぶといふ。

◎英國ケンブリッヂ大學　の議に女子に學位を許可するとを否决したるに當り、男子の學生等さきりに示威運動をなしたるか、同市の公立書籍館にては、女子蔑の意見書を自由に頒布する爲、讀書室に備へんとするとも拒絕したりといふ。

◎シカゴ内外科醫學校　にては此程女子の入學を許可したり。同校は近來イリノイス州立大學の一部となりしが爲、大學評議員等は法律上女子入學を拒絕することと能はざるが故に、男子醫學生等の反對ありしにも拘らず、斷然其門を女子に向ふて展開したり。而してこれ全くヒユーキル孃となんいへる人の熱心なる要求に基くものとぞ。

◎女子銀行副頭取　米國アイオワ州エルドラなるパーヂン銀行にては取締役等協議の上、ミシガン州、マーシヤルのアリス、パブパート夫人を擧げて副頭取となしたり。

◎有名なる故ハアリエット、ビーチヤー、ストウ夫人の令妹イザベラ、ビーチアー、フーカー夫人は、此程ハートフオルドに一宅を購求せんが爲めに、世上の寄附金を乞へり。同處に亡ストウ夫人の二孃未だ嫁せずして多年住居しつゝありといふ。此度の舉や、即ち故ストウ夫人の効績紀念の目的に出づるものなり。

◎女子を以て男子に代ふ　ボストンなる新英州電信電話會社にては、此程全く男子の夜業者を廢して、代ふるに年少女子を以てしたり。こは男子の疎暴不規律なるが爲めなりといふ。

◎賞を得ると三次　ボストン内外科醫學校本年度卒業式に於て一人の婦人ゲルツルード、ジヤクソン孃といへるは、級中唯一の女性にして、最上の名譽を得たり、賞を得たる三、其一は全科の成績の最優等なるが爲、其二は產科術の拔群なるが爲、其三は醫療化學上の特殊研究に秀でたるが爲めなりしとぞ。

◎アール、ドルーフ孃　といへるは、此程英國皇立音樂學校に於て同校最上の賞與を受けたり。此賞與はリスト奬學金と名けられて、男女ともに競爭すべきものとなれり。此奬學金を獲たるものは、三年間同學校にて無月謝の教授を受け、其後二年間外國の音樂學校に遊學するを得たる丈の資金を與へらるるものなりといふ。

◎世界婦人矯風會年會　本年は加奈多トロント市に於て十月二十三日より同二十六日迄開設せらるゝ筈にて、我國の婦人矯風會よりば、米國クリプラント醫學校在學井上外茂子を出席委員として派出するとゝなれり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

耳科診察

毎日 自午前九時 至午後四時

東京神田區駿河臺南甲賀町十番地

小此木耳科醫院

院主 ドクトル 小此木信六郎

◎歌詠募集◎

◎季、雜、戀、其題は何にても隨意、短歌今樣ともに有志の投詠をまつ

◎投詠ありたるものは、大家の撰を乞ひ、其秀逸なるものを掲ぐ

◎又所々の歌會にて高點を得たる和歌の寄送を乞ふ。

◎寄詠秀逸のものは總て本誌文藝欄内に收むべし。

女學雜誌社

諸方病家病院の御依賴に應じ、親切叮嚀なる看護婦派出可仕候

明治三十年九月

東京神田區仲猿樂町十七番地ホノ十四號

富士見看護婦會

元麴町區富士見町二丁目在

醫科大學卒業

會主 吉村艮子

本院

看護婦生徒 ヲ募集ス

志望者ハ十月廿日迄ニ申込アレ

麴町區下二番町

電話本局八二一

回生病院

●東邦協會々員、統計學社々員

●東京統計協會特別會員 伊東祐穀君編纂

露國形勢總覽

全壹冊 正價金五拾錢 郵稅金四錢

●洋裝クロース製金字入●紙數百八十頁

本書ハ帝室、政體、面積及人口、宗敎、敎育、財政、國防(國境、陸軍、海軍)產業、商業、外交其他ニ分チ露國萬般ノ形象ヲ綱羅セルモノニシテ職業ノ何タルヲ問ハズ苟モ有志者ニ在テハ一日モ缺クベカラザルハ玆ニ喋々スルヲ要セズ御入用ノ諸君ハ本部へ御申込アレ

●代價ハ本部主幹鍋島篤宛東京銀座郵便取扱所へ御振込ヲ乞フ但シ郵券代用ハ貳錢又ハ五厘切手ニテ一割增

東京市京橋區山城町十六番地

發行所 **東京統計協會出版部**

賣捌所 ●丸善●博文館●目黑●八尾●林●大倉●文海堂●東海堂●有隣堂

◎第二版成る◎

故若松賤子女史譯述

小公子

全一冊洋裝美本
帋數三百五十頁
正價金三十五錢
郵稅八錢

近代歐米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるゝと數十回、一代の流行を左右して一時少年の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化し、德に隣あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作者を愛撫し、言行惣て甘露慈雨の如し、讀去り讀來るうち讀者亦自から化せらるるを覺ゆ、何ぞ其の可憐高潔なるや、少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず。賤子女史曩に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、曾て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に巻を棄る能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるゝこと切なり。即ち茲に其遺稿を收め、女史が一周忌日に會せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘煙中島女史は字を題し、鄕友松井昇氏は密畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元 東京日本橋區本町三丁目 博文館
大賣捌 東京麹町區下六番町六番地 女學雜誌社

家庭新聞

毎月一回月曜日發兌

第十三號目次

◎三學四教(承前) 內藤耻叟
◎暗鬼(三) 花圃女史
◎女流思想の低下(承前) 木公
父母は其子の模範たらざるべからず◎小兒の病氣看護に就て◎朝顔の花を見て(南大濱)◎女教訓詞◎大鳥圭介翁の庭訓◎生命保險と火災保險◎巷の風◎臺所料理法◎雜報十數件
◎迷信 松山淨松
◎水底の誅 尾上新兵衛
日本の音樂(阿新丸)◎大和の子◎看護のつとめ◎母の慈愛◎修身道歌いろは集

一部定價金二錢◎十部前金十九錢◎二十部前金三十七錢(郵稅一部五厘)

發行所 東京京橋區加賀町十四番地 家庭新聞社

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌社出版書目

櫻井成明譯 巖本善治著 腓立比物語	正價金廿八錢	郵稅金六錢
同 公娼可滅	正價金三錢	郵稅金二錢
横山雅男著 教育講義	正價金七錢	郵稅金二錢
中島湘煙女史著 婚姻論	正價金十二錢	郵稅金四錢
小說 善惡の岐 島田三郎、植木枝盛合著	正價金十七錢	郵稅金四錢
本社編 廢娼演說	正價金三錢	郵稅金二錢
同 子供の話	正價金四錢	郵稅金二錢
兒育草	正價金十二錢	郵稅金二錢
炭谷小梅著 藝者と手掛	正價金二錢	郵稅金二錢
阿波鳴門左衞門作 戯曲 桂吾郎	正價金十錢	郵稅金二錢
松山高吉著 邦文學	正價金十二錢	郵稅金四錢
巖本善治著 吾黨の女子教育	正價金十錢	郵稅金二錢
同 日本女學	正價金四錢	郵稅金二錢

布川靜淵 小此木秀野合著
俳諧史傳
正價金二十七錢 郵稅金四錢

故鈴木弘恭述
百人一首講義
正價金二十八錢 郵稅金四錢

同
文法口授
正價金十二錢 郵稅金四錢

故若松賤子英文集
巖本嘉志子
正價金六十錢 郵稅金六錢

女學雜誌一手大賣捌 東京神田區表神保町 東京堂

明治廿七年二月十四日內務省許可
明治三十年九月廿四日印刷
明治三十年九月廿五日發行

發行兼編輯者 東京府北豐島郡巢鴨村字庚申塚六百六十番地 巖本善治
印刷者 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十六番地 島保藏
發行所 東京市麴町區下六番町六番地 女學雜誌社
印刷所 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場 (電話本局十九番)

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY